

目次

目次.....	1
1.1 ご使用前の感謝状.....	4
1.2 当マニュアルの特色.....	5
1.3 安全上の情報.....	5
第2章 本マザーボードの紹介.....	6
2.1 マザーボードの外見は？.....	6
2.2 仕様.....	7
2.3 構成図.....	8
第3章 ハードウェア・インストール.....	9
3.1 クイック・インストールの手順.....	9
3.2 インストールのために知っておくべきこと.....	10
CPUをインストールする.....	10
CPUクーラーをインストールする.....	11
CPU とシステムファンをインストールする.....	15
メモリーモジュールをインストールする.....	16
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大化する.....	17
IDEとフロッピーケーブルを接続する.....	18
フロントパネルケーブルを接続する.....	19
ATX電源ケーブルを接続する.....	20
3.3 他のインストール参照情報.....	21
CPU 電圧とクロック数の設定.....	21
シリアルATAを接続する.....	22
ハードディスクの設定を調整する.....	23
PCI express x16 グラフィックスロットに接続する.....	25
PCI Express x 1 Slotに接続する.....	27
IrDAに接続する.....	28
10/100/1000Mbps LANをサポート.....	29



USB2.0に接続する	30
1394に接続する.....	31
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果	32
フロントオーディオに接続する.....	33
CD_INに接続する.....	34
COM1/COM2に接続する.....	35
Case Openに接続する.....	36
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェイス) を接続する.....	37
PS2 キーボードに接続する	38
色分けされた後部パネル.....	39
LED表示.....	40
3.4 ジャンパー設定.....	41
第4章 特別な機能とユーティリティー	42
4.1 他の便利な機能.....	42
第5章 BIOSを設定する	43
5.1 紹介.....	43
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方	44
5.3 BIOS設定への入り方	44
標準的なCMOS機能.....	45
高度なBIOS 機能.....	47
高度なチップセット機能.....	49
統合された周辺機器.....	51
パワーマネジメント設定.....	56
PNP/PCI構成.....	58
Silent BIOS/HWモニター	59
クロック/電圧コントロール.....	60
設定値をロードする.....	61
ターボ設定値をロードする	62
パスワードを設定する.....	63

設定を保存して終了する	63
設定を保存せずに終了する	63
EEPROM設定値をロードする	63
EEPROM設定値を保存する	63
著作権	63
5.4 Windows環境下でのBIOSアップグレード	64
5.5 Vivid BIOSテクノロジー	66
第6章 ドライバーをインストールする	67
6.1 ドライバーをインストールする	68
6.2 ユーティリティをインストールする	69
6.3 ディスプレイ出力動作	70
ディスプレイ出力動作	71
第7章 トラブルシューティング	73
第8章 テクニカルサポート	74
型式名とBIOSバージョン	75
お買い上げのマザーボードの登録	75
Technical Support	76

1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。当マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは当マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするためにウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーフレンドリーなマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, III, Pentium 4そしてPentium MareのロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは当マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

当文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2005 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 当マニュアルの特色

当マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



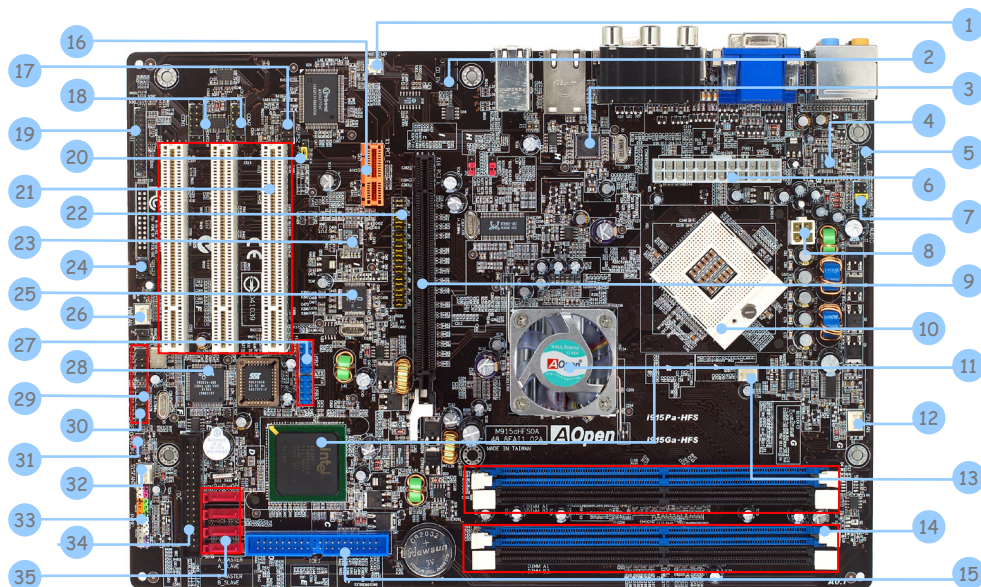
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

第2章 本マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



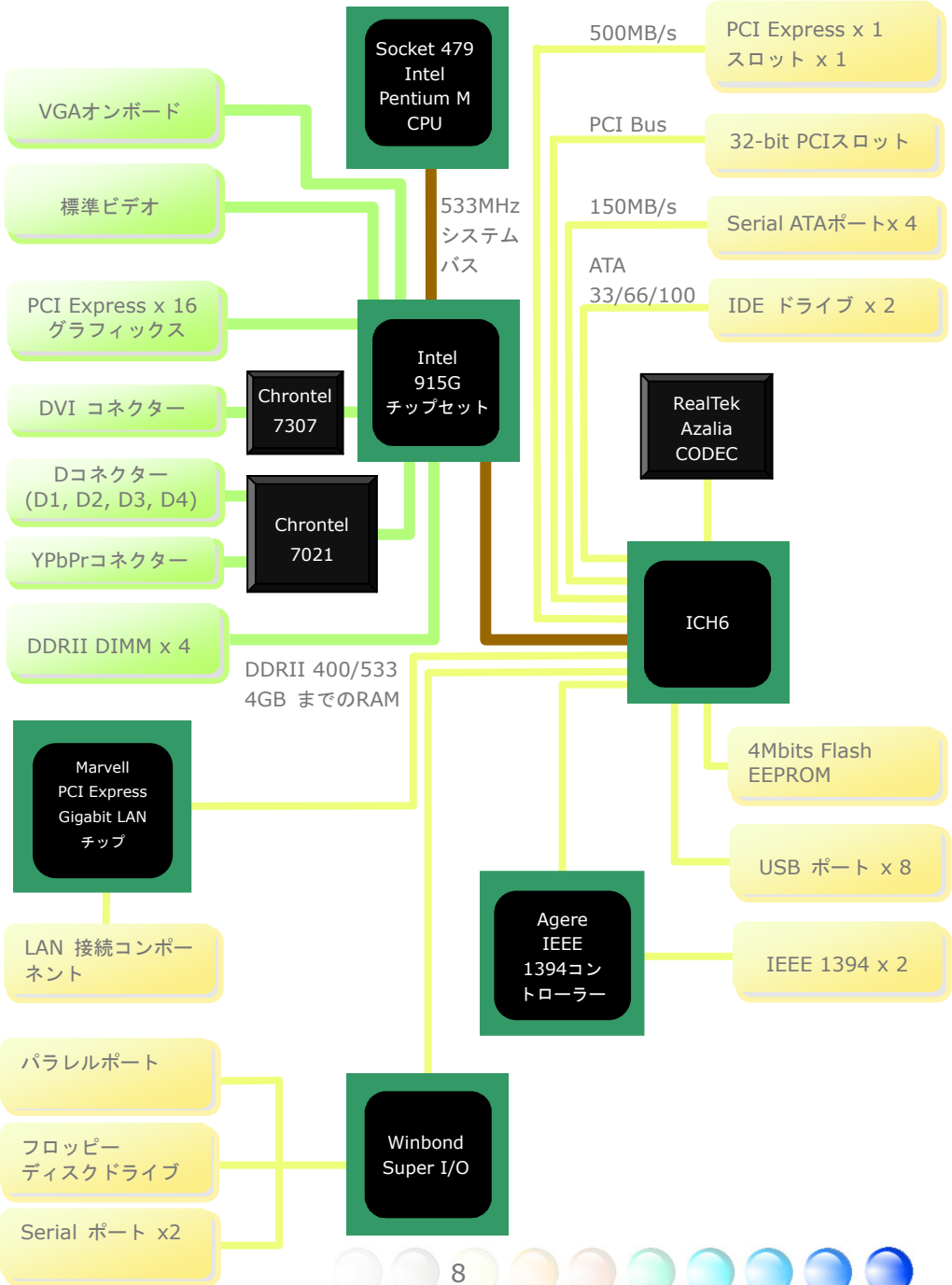
1. 電源温度コネクタ	19. プリンターポートコネクタ
2. CD_IN コネクタ	20. JP28 PS2 KB/マウスウェイクあつぷジャンパ
3. Marvell PCI-Express Gigabit LAN	21. 32ビット PCI 拡張スロット
4. Azalia Audio codec	22. PCI Express VGA カード有効ジャンパ
5. S/PDIF コネクタ	23. DVI コントローラ 7307
6. ATX 電源コネクタ	24. IrDA コネクタ
7. フロントオーディオコネクタ	25. TV-OUT コントローラ 7021
8. 4ピン12V ATX 電源コネクタ	26. 電源FAN コネクタ
9. PCI Express x16 スロット	27. USB コネクタ
10. Intel Pentium M CPU をサポートする479ピン CPUソケット	28. 1394 コントローラ Agere FW3226
11. Intel 915G/ICH6 チップセット	29. 1394 コネクタ
12. CPU FAN コネクタ	30. Case Open コネクタ
13. システムFAN1 コネクタ	31. JP14 CMOSデータクリアジャンパ
14. 240ピン DIMMs x 4 (DDRII)	32. SYSTEM FAN2 コネクタ
15. IDE コネクタ	33. フロントパネルコネクタ
16. PCI Express x1 スロット	34. FDD コネクタ
17. PS/2 マウス & キーボードコネクタ	35. Serial ATAポート x 4
18. COM1/COM2 コネクタ	

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

型式	i915Ga-HFS
CPU	Intel Pentium M (Dothan) CPU Socket 479 533MHz
チップセット	Intel 915G/ICH6
メインメモリー	Dual Channel DDRII DIMM x 4, DDRII400/533 DIMM タイプ : 256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16 グラフィックススロット
IDE	一体型のATA100とSerial ATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]
LAN	Marvell Gigabit PCI Express LAN チップ
サウンド	オンボードの Intel 高精度オーディオ 7.1 チャンネル以上をサポート
USB	チップセットと一体型, USB 2.0 x 8
IEEE 1394	Agere 1394 コントロールチップ
スロット	PCI Express x16 グラフィックススロット x 1 PCI Express x1 スロット x 1 PCI スロット x 3
後部パネルI/O	USB ポート x 4, LAN ポート x 1 VGA ポート x 1, DVI ポート x 1 標準ビデオポート x 1 YPbPr ビデオポート x 1 D コネクタ (D1, D2, D3, D4) ライン入力 x 1, スピーカー出力 x 1, マイク入力 x 1 後部 SUR x 1, 中央/サブウーハー x 1, 側面 SUR x 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタ x 1 IDE チャンネル: ATA100 x 1 Serial ATA チャンネル x 4 フロントパネル x 1 フロントオーディオ x 1 USB2.0 コネクタ x 2 CPU ファン x 1 システムファン x 2 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 S/PDIF コネクタ x 1 CD_IN x 1 IrDA x 1 プリンターコネクタ x 1 PS2 キーボードコネクタ x 1 COM1 コネクタ x 1 COM2 コネクタ x 1 IEEE 1394 x 2
BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS
ボードサイズ	305 mm x 220 mm

2.3 構成図



第3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストールの手順

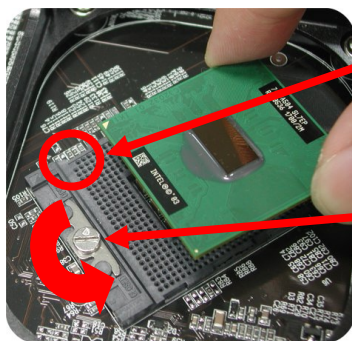


3.2 インストールのために知っておくべきこと

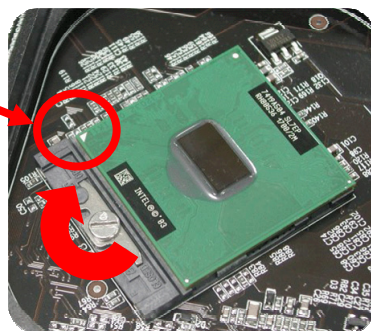
CPUをインストールする

このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるuFCPGAとuFCBGAパッケージCPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. 反時計回りにソケットネジを回して外す。
2. ソケットの1番ピンを確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。1番ピンと金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUを締めるためにCPUソケットネジを時計回りに回して固定する。



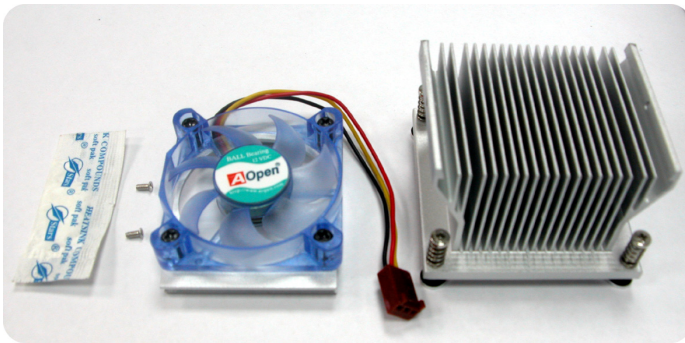
金色の矢印



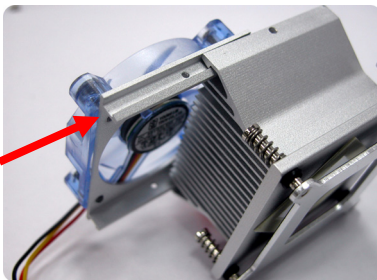
CPUクーラーをインストールする

当マザーボードにはAOpenが設計した特別なCPUクーラーが付属しています。CPUクーラーのインストールについては以下の手順に従ってください。

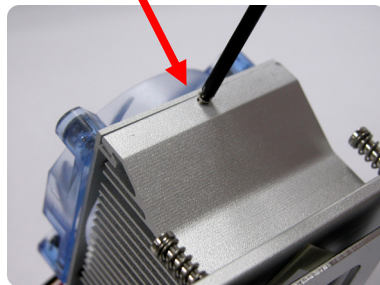
1. まず初めに、CPUクーラーの箱の中に全てのパーツが揃っていることを確認して下さい。サーマルコンパウンドが一つ、ネジが2つ、CPUファンおよびサーマルヒートシンクがあります。不足しているものがある場合は、お近くのAOpenテクニカルサポートチームに直接ご連絡下さい。



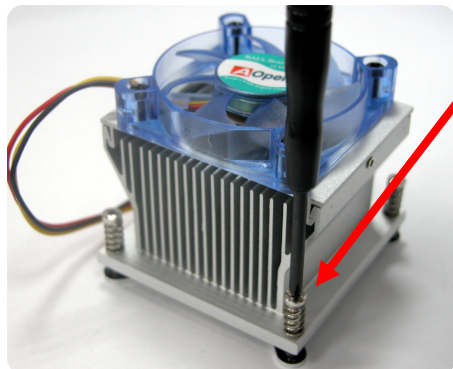
2. ヒートシンクの上にCPUファンを接続して下さい。それからCPUファンとヒートシンクをネジで固定して下さい。



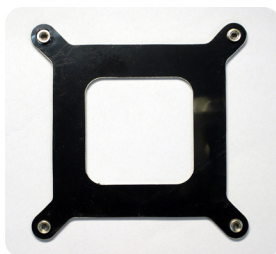
穴にネジで留める



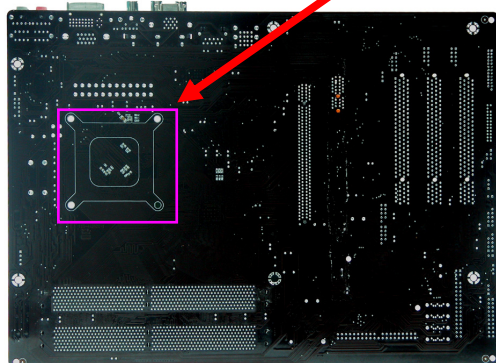
3. ヒートシンクの4つのネジを外し、ブラケットを外して下さい。



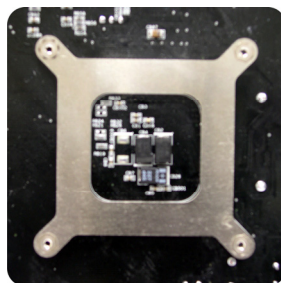
CPUクーラーの後部
パネルを外す



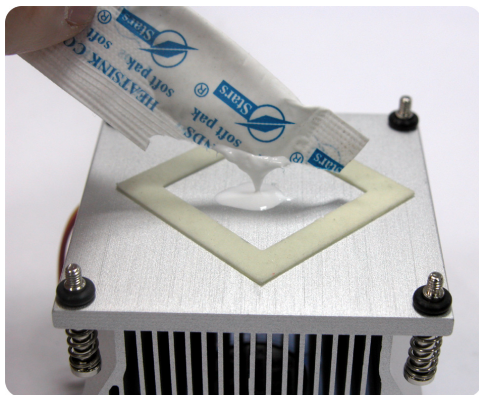
4. マザーボードの裏にブラケットを固定する。



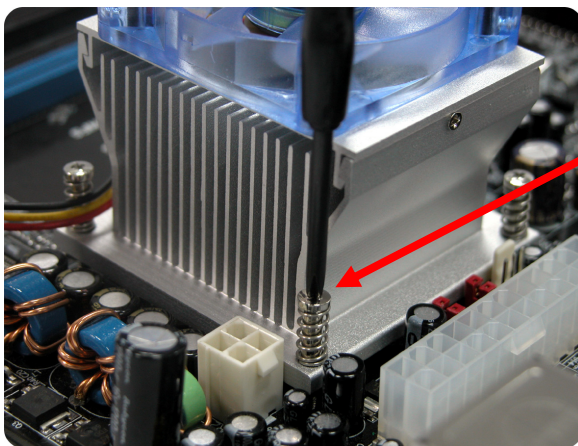
ブラケットをこの位置に置く



5. ヒートシンクの下になめらかになるようサーマルコンパウンドを塗り、しっかりと混ぜて下さい。



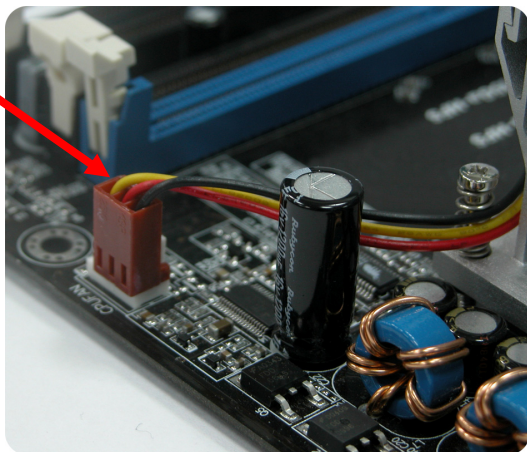
6. プロセッサの上にCPUクーラーを置き、ヒートシンクの4つのネジを固定して下さい。マザーボードとヒートシンクがネジでしっかりと固定されていることを確認して下さい。



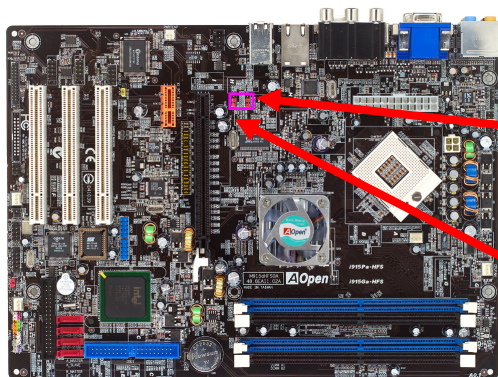
穴をネジで留める

7. CPUクーラーの電源コードをCPU FANコネクターと接続し、完了です。

CPUFAN
コネクター



8. CPUのジャンパーを調整して下さい。



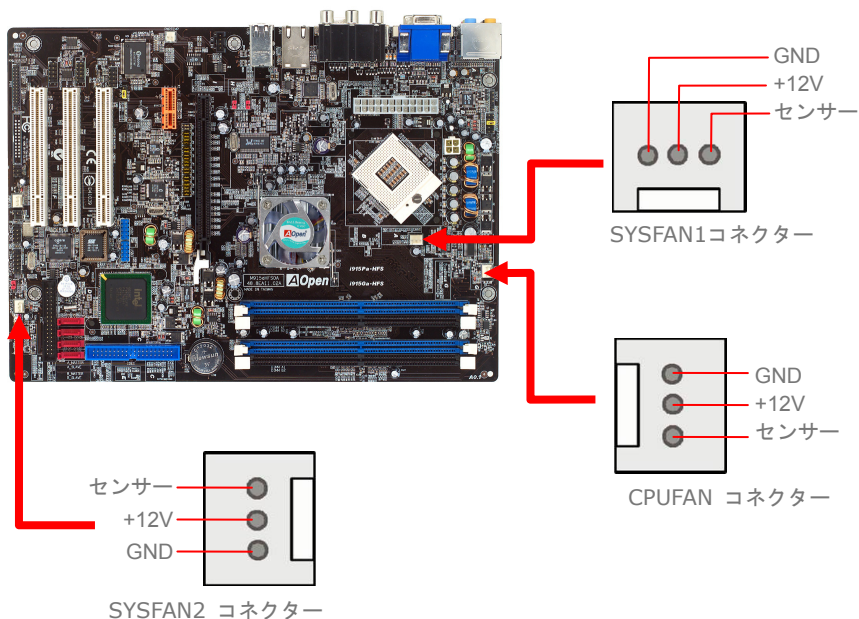
フロントバスクロック数

CPUで自動	1		JP1
133MHz	1		JP1
DOTHAN Bx	1		JP2
予約	1		JP2



CPU とシステムファンをインストールする

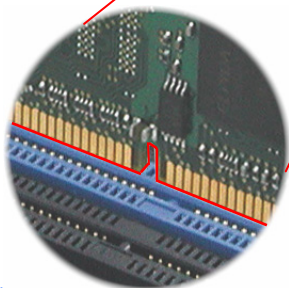
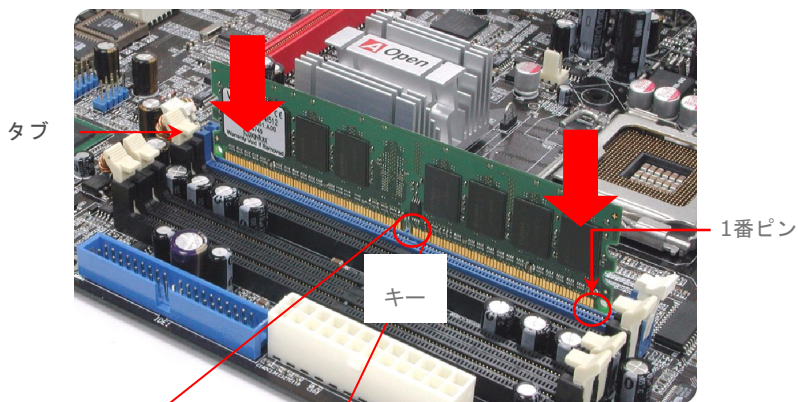
CPUファンケーブルを3ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN2コネクタに接続できます。



メモ: CPUファンの中にはセンサーピンがないものがあるため、その場合はファンのモニターをサポートできません。

メモリーモジュールをインストールする

区別がしやすいように、DIMM スロットは黒色とネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



メモ : DIMMスロットのタブは DIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大化する

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にするには、DIMMの規格値が下記の条件を満たしている必要があります。

各チャネルのDIMM規格値の一致

- 同一のデンシティ (128MB~1GB)
同一のデンシティのメモリーモジュールをチャネル1(DIMM1とDIMM3)およびチャネル2 (DIMM2とDIMM4)に挿入している限り、デュアルチャネルモードがオンになります。

DIMM1 + DIMM3 = DIMM2 + DIMM4

例: 1GBメモリーモジュールをDIMM1とDIMM3に挿入する場合、DIMM2 + DIMM4 = 1GBである時にデュアルチャネルモードがオンになります。

- 同一のDRAMバス幅 (x8 あるいは x16)
- 片面または両面のいずれか



メモ: 異なるチップおよびデンシティのメモリーモジュールの使用により、システムが不安定になる場合があります。

デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Dual Channel Mode Enabled

CPU 200MHz / 200MHz Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz 1.525V / 1.525V
AGP 66.67MHz / 66.67MHz AUTO / AUTO
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 1.50 V / 1.50 V
3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```

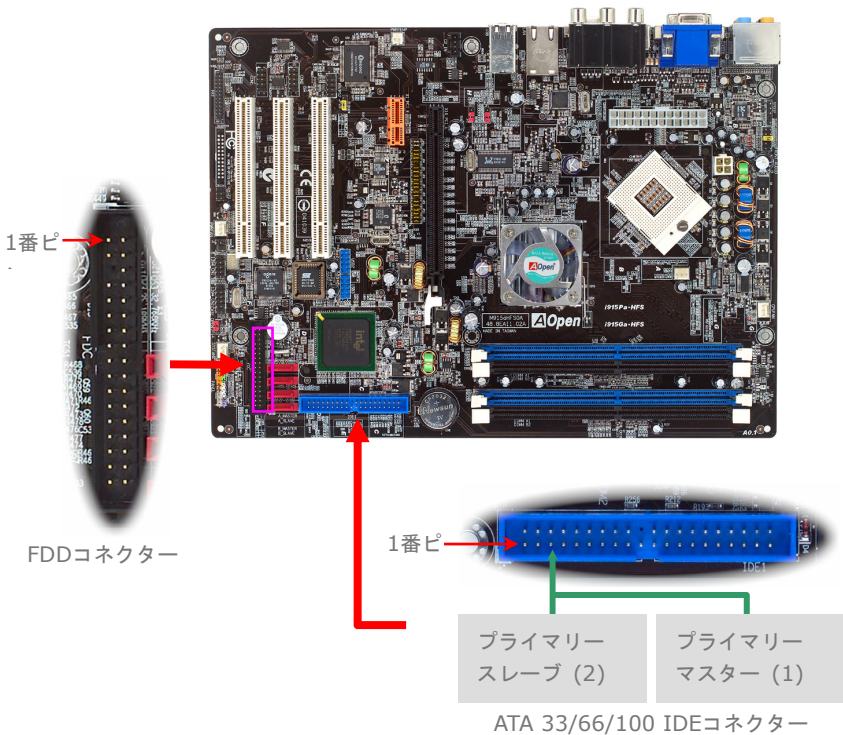


<http://www.aopen.com.tw>

Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

IDEとフロッピーケーブルを接続する

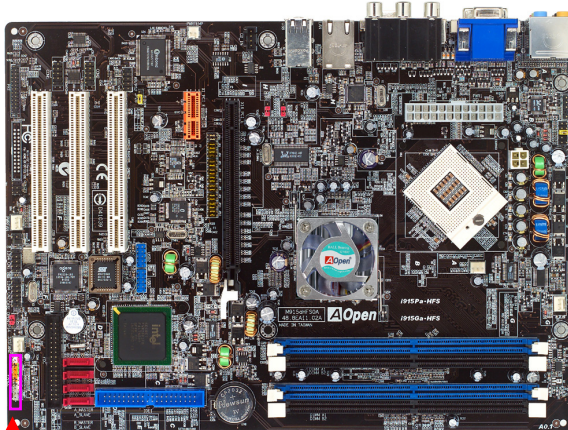
34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



フロントパネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。

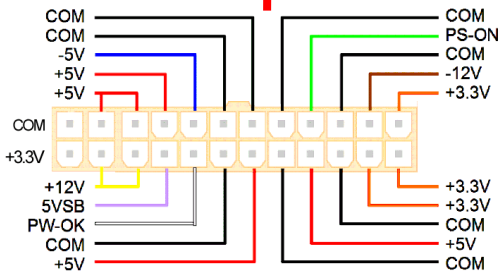
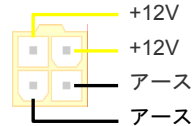
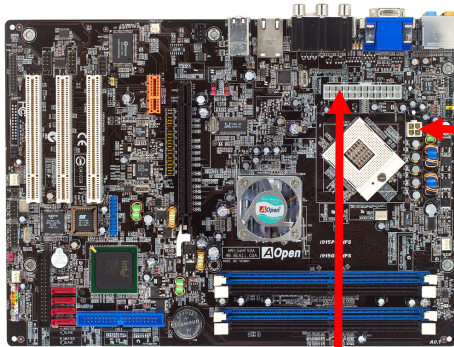


	1		
NC	○	○	Power Switch
NC	○	○	GND
+5V	○	○	Power LED-
HDD LED	○	○	GND
HDD LED	○	○	Power LED+
+5V	○	○	NC
+5V	○	○	GND
GND	○	○	GND
NC	○	○	RESET
SPEAKER	○	○	GND

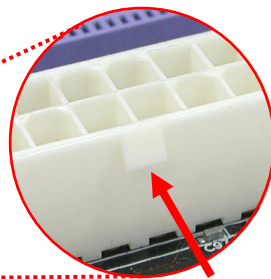
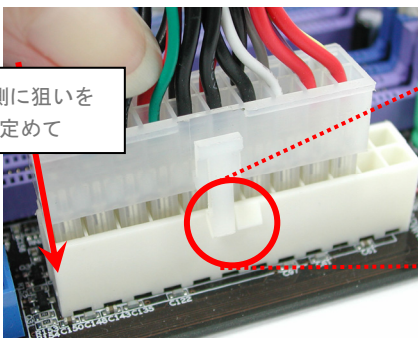
フロントパネルコネクタ

ATX電源ケーブルを接続する

当マザーボードには下に示されているように、20ピンと4ピンのATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。20ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれるよう強くお勧めします。



メモ：図示されているように、ミス防止設計の側を手前に向けて、電源プラグを24ピンATX電源コネクタの**左側**に合わせて下さい。



3.3 他のインストレーション参照情報

CPU 電圧とクロック数の設定

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電源オン時にCPU電圧を自動的に検出する電圧ID (VID)機能をサポートしています。

CPUクロック数の設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの中で1MHzずつのCPUオーバークロック機能を通して行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロックx CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは"倍率固定"、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します。!!)

BIOS設定 > クロック / 電圧制御 > CPU バスクロック

CPU レシオ	4x, 7x... 17x, 18x, 20x
CPU FSB (マニュアル調整)	FSB = 100MHz - 400MHz、1MHz ずつの CPUオーバークロックによる

プロセッサ番号	アーキテクト	クロック速度	フロントバス	キャッシュ	レシオ
Pentium M 770	90nm	2.13GHz	533MHz	2MB L2	16x
Pentium M 760	90nm	2.00GHz	533MHz	2MB L2	15x
Pentium M 750	90nm	1.86GHz	533MHz	2MB L2	14x
Pentium M 740	90nm	1.73GHz	533MHz	2MB L2	13x
Pentium M 730	90nm	1.60GHz	533MHz	2MB L2	12x
Pentium M 765	90nm	2.10GHz	400MHz	2MB L2	21x
Pentium M 755	90nm	2.00GHz	400MHz	2MB L2	20x
Pentium M 745	90nm	1.80GHz	400MHz	2MB L2	18x
Pentium M 735	90nm	1.70GHz	400MHz	2MB L2	17x
Pentium M 725	90nm	1.60GHz	400MHz	2MB L2	16x
Pentium M 715	90nm	1.50GHz	400MHz	2MB L2	15x
Pentium M 705	130nm	1.50GHz	400MHz	1MB L2	15x
Celeron M 370	90nm	1.50GHz	400MHz	1MB L2	15x
Celeron M 360	90nm	1.40GHz	400MHz	1MB L2	14x
Celeron M 350	90nm	1.30GHz	400MHz	1MB L2	13x
Celeron M 340	130nm	1.50GHz	400MHz	512KB L2	15x
Celeron M 330	130nm	1.40GHz	400MHz	512KB L2	15x

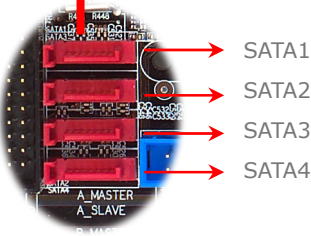
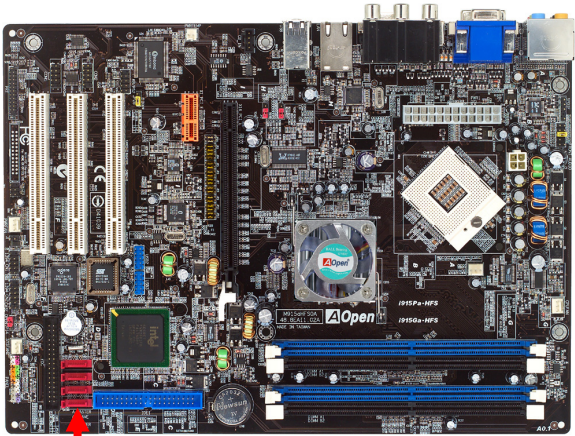
メモ： CPUのスピードは急速に変化するため、このインストレーション・ガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参照のためのものです。



警告： Intel 915Gチップセットは最大533MHz (133MHz*4)のシステムをサポートしていません。クロック設定を高くすると深刻なシステム損傷を起こすかもしれません。

シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパーレスであることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクがシリアルATAポートにインストールされているときは、自動的にポート0(SATA1)に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。



ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの1セットの平行IDEを除いて、当マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために「Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA」の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、設定値は自動になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is as follows:

- Standard CMOS Features
- Advanced BIOS Features
- Advanced Chipset Features
- Integrated Peripherals**
- Load Setup Defaults
- Load Turbo Defaults
- Set Password
- Save & Exit Setup

The 'Integrated Peripherals' menu is expanded to show:

- Po Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Integrated Peripherals
- Pn OnChip IDE Device **Press Enter**
- Si SuperIO Device **Press Enter**
- Fr USB Controller Enabled
- USB 2.0 Controller Enabled
- USB Keyboard Support Auto
- Onboard Audio Codec Enabled
- Onboard LAN Control Enabled

The 'OnChip IDE Device' menu is expanded to show:

- On-Chip Serial ATA **Auto**
- x PATA IDE Mode Primary
- SATA Port SATA3,SATA4 Secondary

The 'On-Chip Serial ATA' menu is expanded to show:

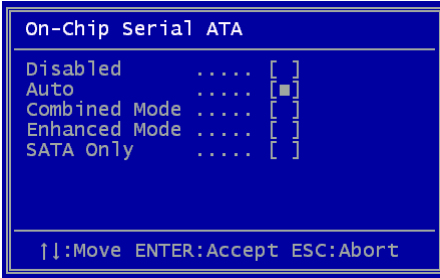
- *** On-Chip Serial ATA Setting ***
- On-Chip Serial ATA **Auto**
- x PATA IDE Mode Primary
- SATA Port SATA3,SATA4 Secondary
- *** On-Chip PATA Setting ***
- On-Chip Primary PCI IDE Enabled
- On-Chip Secondary PCI IDE Enabled

The 'On-Chip Serial ATA' menu is expanded to show:

- Item Help
- Menu Level ▶
- [Disabled]: Disabled SATA Controller.
- [Auto]: Auto arrange by BIOS.
- [Combined Mode]: PATA and SATA are combined. Max. of 2 IDE drives in each channel.
- [Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max. of 6 IDE drives are supported.
- [SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.

At the bottom of the screen, the following text is displayed:

↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD=Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F2: Item Help F5: Previous Values F6: Setup Defaults F7: Turbo Defaults



設定値設定から変更する場合は、Enterを押すと選択リストが表示されます。

Disabled: ご使用のシステムにインストールされているのが従来のIDEハードディスクのみである場合に選択できます。この項目を無効にすると、POST中のシリアルATAハードディスク検出を行いませんから理論上の起動時間は多少短縮されます。ただし、後ほどシリアルATAハードディスクをインストールした場合には設定を変更するのを忘れなく。

Auto: これがマザーボードの工場設定値です。ご使用のシステムが正常に動作している場合は、基本的には変更は不要です。システムは自動的にPATA (IDE)をプライマリーとして認識します。

Combined Mode: 従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールしている場合は、このモードを選択できます。このモードでは、IDEハードディスクまたはシリアルATAハードディスクを起動デバイスとして任意に設定できます。ただしここで注意すべきなのは、IDEはシリアルATAとマッピング関係にある点、すなわちこれが1つのIDEチャンネルを占め、残りIDEの1チャンネルだけになることです。PATAモードがプライマリーとして設定されると、SATA3とSATA4がセカンダリーに設定され、PATAモードがセカンダリーに設定されると、SATA1とSATA2がセカンダリーに設定されません。

Enhanced Mode: 最新のOS(例：Windows XP, Windows.NET Server)をお使いの場合は、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て(従来型IDE x 2, シリアルATA x 4)を認識し、正しく機能します。しかし、このモードではPATAモードが設定されることに注意してください。

メモ: ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSの元でこのモードが設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

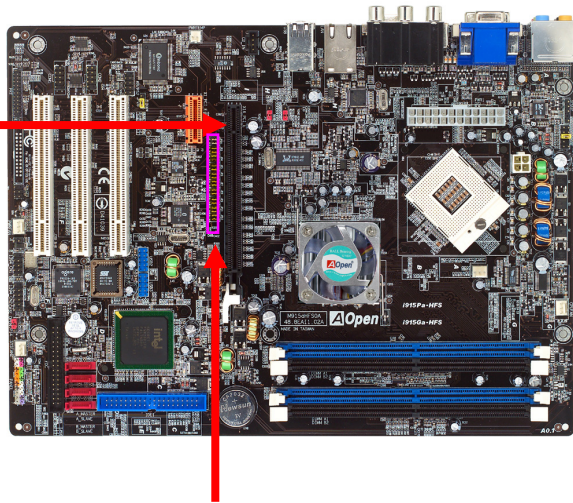
SATA Only: シリアルATAハードディスクをインストールする場合にのみ、このモードを選択できます。

PCI express x16 グラフィックススロットに接続する

当マザーボードはPCI Express x 16グラフィックススロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ黒色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各方向に4.0GB/sです)までにアップグレードされました。



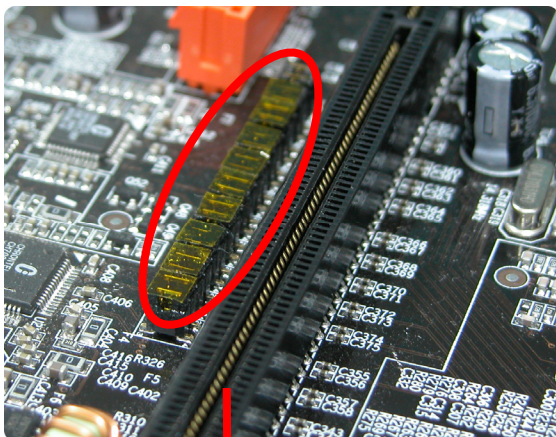
PCIex16



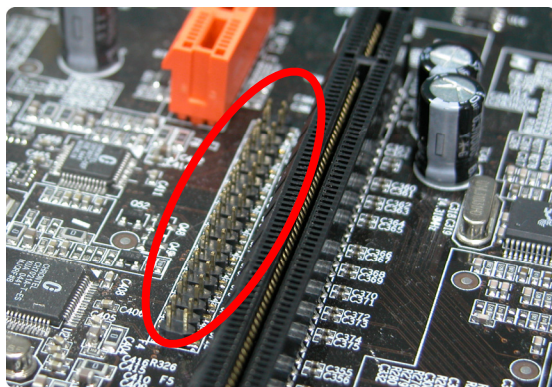
JP3 ~ JP12

	JP3	JP4	JP5	JP6	JP7	JP8	JP9	JP10	JP11	JP12
HDTV	On	On	On	On	On	On	On	On	On	On
PCIeX16	Off	Off	Off	Off	Off	Off	Off	Off	Off	Off

ユーザーがPCI Express x 16グラフィックスを挿入する場合は、PCI Express x 16スロット脇のジャンパーを外さなければなりません。



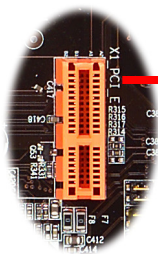
ジャンパーを外す



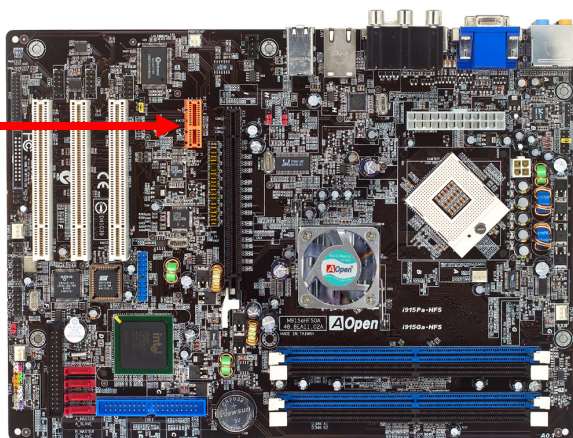
警告：ユーザーがジャンパーを外さない場合は、システムを不安定にさせる可能性があります。

PCI Express x 1 Slotに接続する

当マザーボードはPCI Express x 1スロットを一つ提供しています。これはPCI Express x 16と従来のPCIスロットの間に位置します。現状と今後のプロセッサに同調するために、PCI Express x 1はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は500MB/s（各方向に250MB/sです）を達成しました。これは従来のPCI のデータ転送率のほぼ4倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



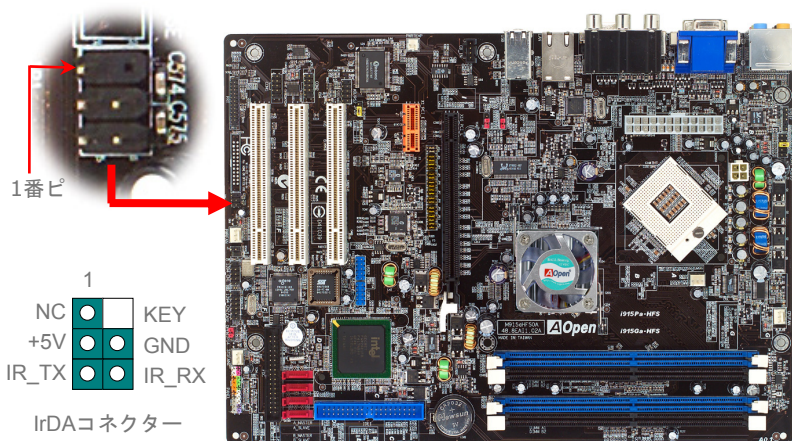
PCIex1



IrDAに接続する

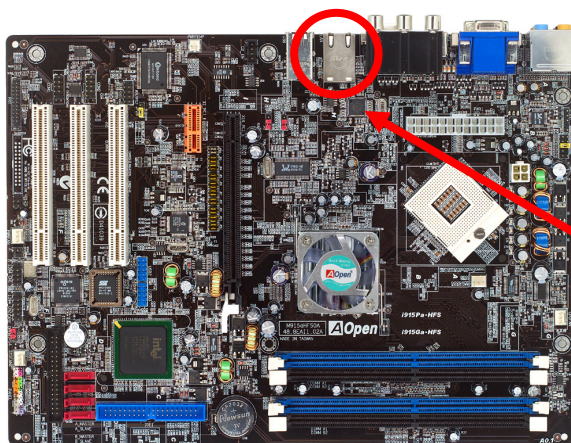
IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



10/100/1000Mbps LANをサポート

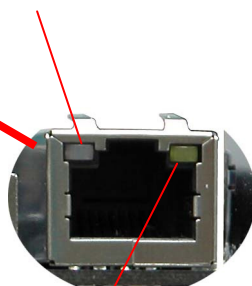
オンボードのデュアルギガビットLANコントローラーの強度については、当マザーボードはオフィスと家庭の用途のため10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタのトップに位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps (10Mbpsだと点灯しない)で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能をオン・オフにするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能をオンにするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”をオンにセットしなければなりません。



速度 LED (Left)

緑色 100Mbps

オレンジ色 ギガビットモード

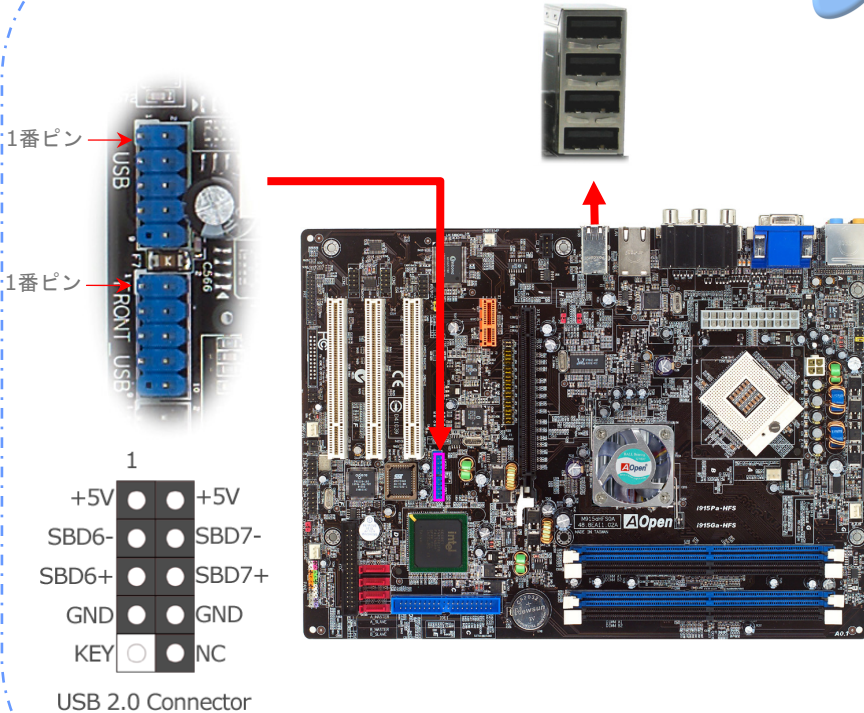


ACT LED (右)

黄色

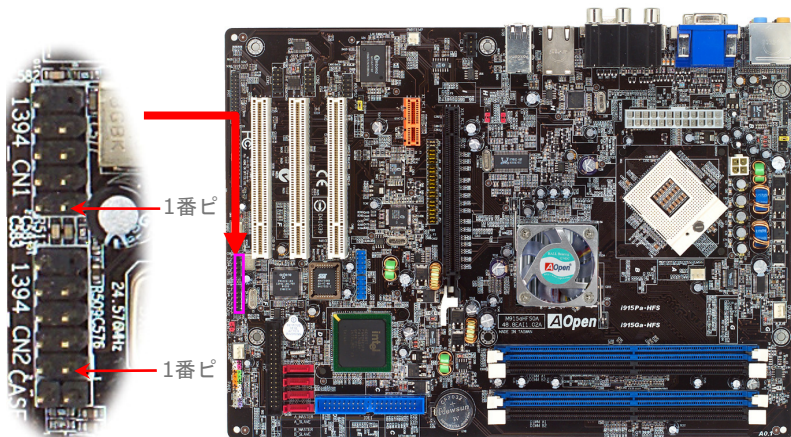
USB2.0に接続する

当マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるような8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USBコネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使えます。



1394に接続する

ボード(AGERE 1394)上のIEEE1394チップによって、データ転送率が400Mb/s までになり、このインターフェイスは高速のデータ転送パフォーマンスを要求するデジタルカメラ、スキャナーなどの他のIEEE 1394デバイスと接続できます。IEEE 1394デバイスと接続するには適切なケーブルを使用してください。



SHIED GND	● ○	
+12V (Fused)	● ●	+12V (Fused)
TPB-	● ●	TPB+
GND	● ●	GND
TPA-	● ●	TPA+
	2 1	

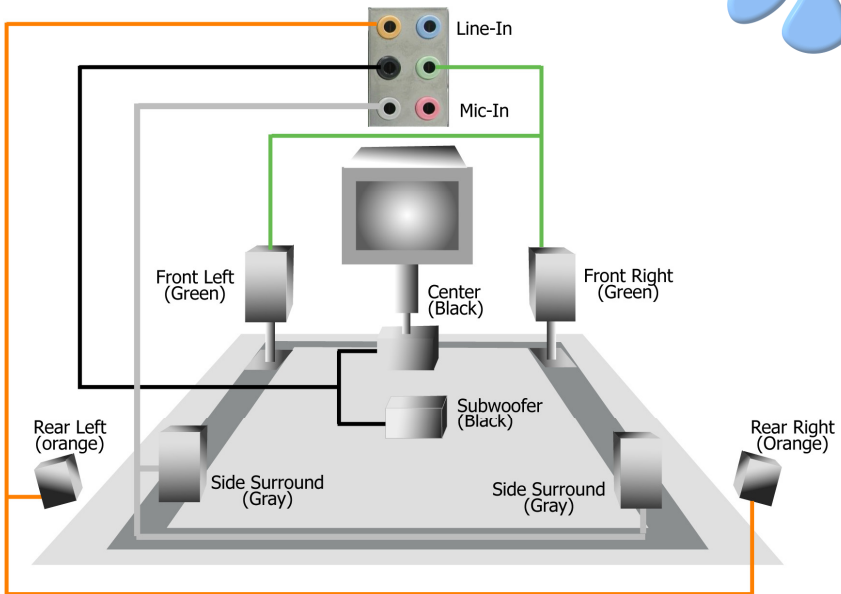
IEEE 1394コネクタ



警告： IEEE 1394ヘッダーではホットプラグができないことに注意してください。そうしてしまうと制御 IC を焼き付けてしまったり、マザーボードに損傷を与えます。

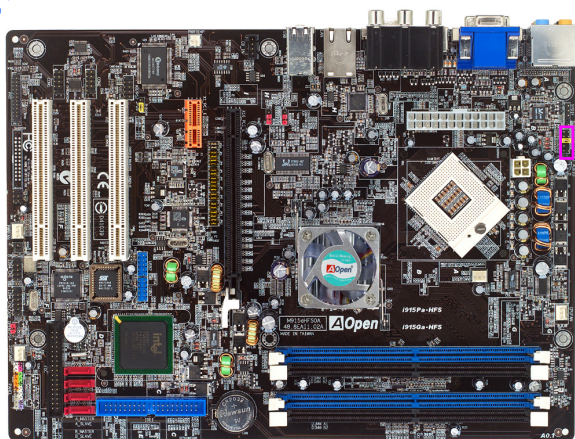
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

当マザーボードにはALC880 CODECが付いており、音響効果において高品質で最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“Speaker out（スピーカー出力）”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。



フロントオーディオに接続する

もしケースのフロントパネルにオーディオポートが付いている場合は、このコネクタを通してオンボードオーディオをフロントパネルに接続できます。ケーブルに接続する前に、フロントオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。もしケースのフロントパネルにオーディオポートがない場合は、黄色のジャンパーキャップを外さないで下さい。



1番ピン

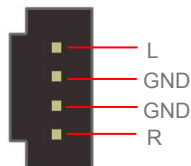
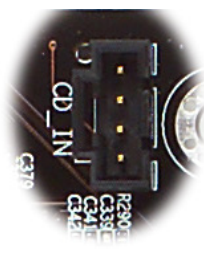
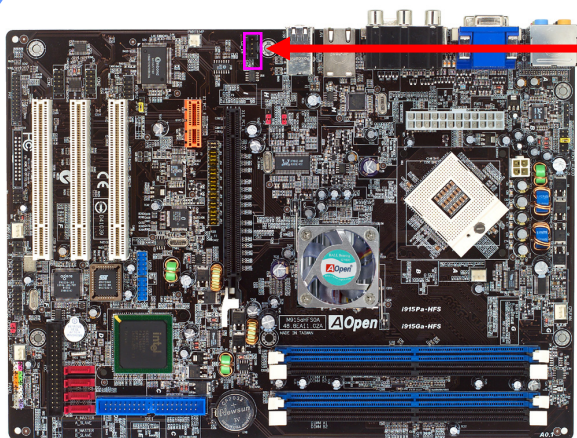


	1	●	AUD_GND
AUD_MIC		●	AUD_VCC
AUD_MIC BIAS		●	AUD_RET_R
AUD_FPOUT_R		○	KEY
NC		●	AUD_RET_L
AUD_FPOUT_L		●	

フロントオーディオコネク

CD_INに接続する

このコネクタはCDROMやDVDドライブからオンボードサウンドにCDオーディオケーブルを接続するように設計されています。



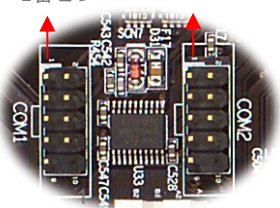
CD-INコネクター

COM1/COM2に接続する

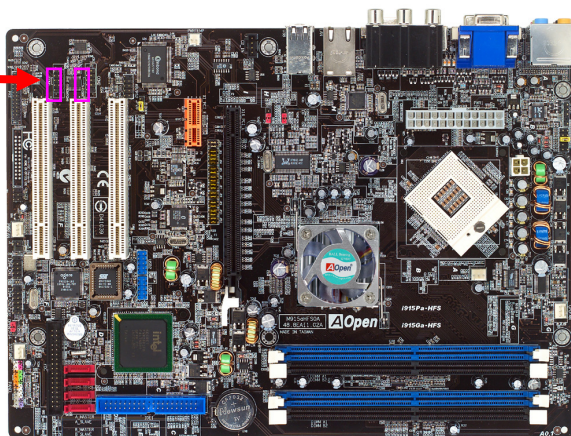
当マザーボードはシリアルポートを2つ提供しています。すべてのポートがPCI32スロットの左側にあります。適切なケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



1番ピン 1番ピン

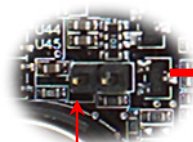


	1		
DCD#	●	●	SIN
SOUT	●	●	DTR#
GND	●	●	DSR
RTS#	●	●	CTS#
R1#	●	○	



Case Openに接続する

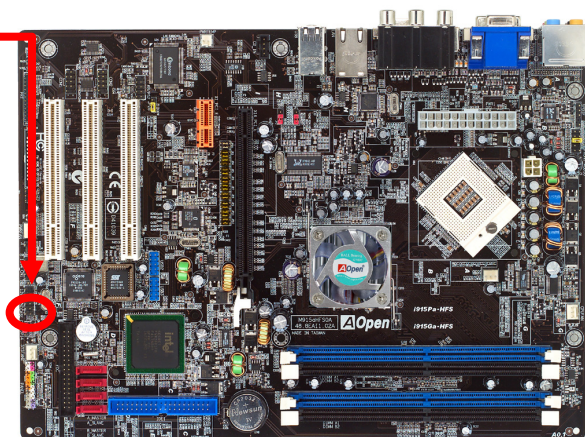
“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはブープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



1番ピン

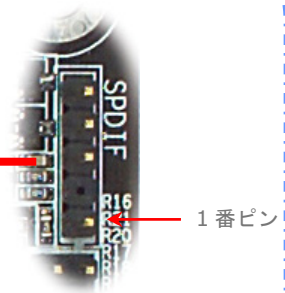
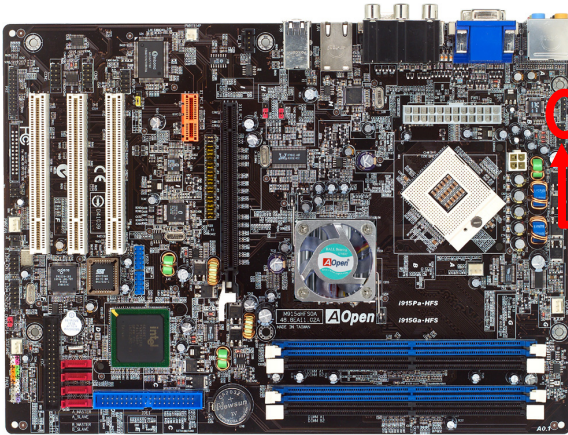
1
センサー ● ● GND

ケース侵入
コネクタ



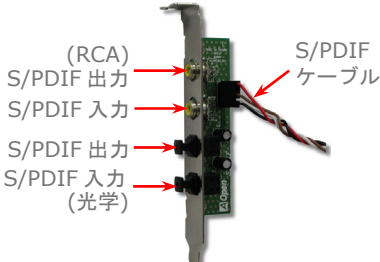
S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のコンバーターを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル入力/出力を担います。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるよう、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。



- 5 ● SPDIF IN
- GND
- SPDIF OUT
- KEY
- +5V
- 1

S/PDIFコネクタ



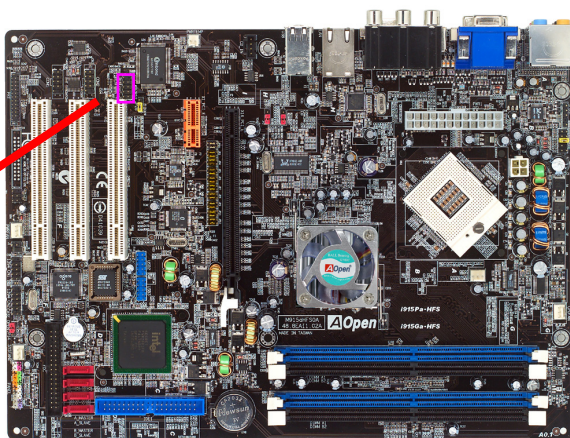
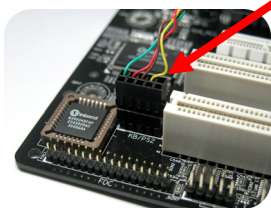
S/PDIF モジュール
(オプションでユーザーアップグレード)

PS2キーボードに接続する

このコネクタは従来のデバイスをサポートするPS2キーボードに接続できるように設計されました。



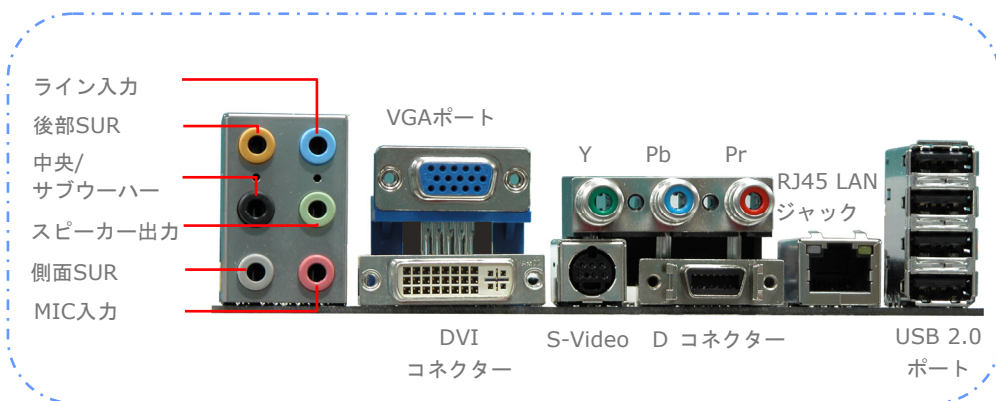
色分けに従ってコネクタを差し込んでください。



1

色分けされた後部パネル

オンボードのI/OデバイスにはAC'97サウンド、VGAポート、DVIコネクタ、YPbPrコネクタ、S-Video、RJ-45 LANコネクタ、そしてUSBポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



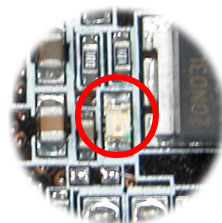
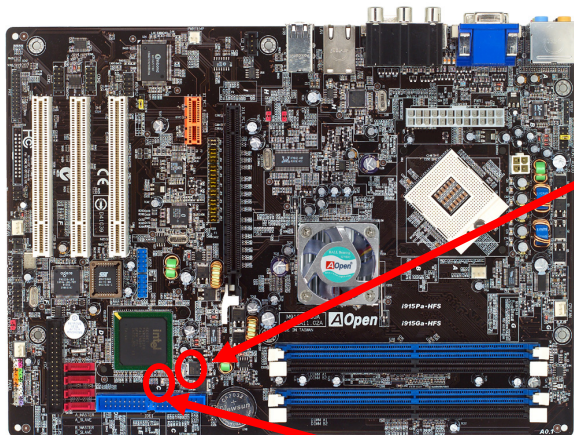
<u>ライン入力:</u>	CDやテープなどのシグナルソースから
<u>後部SUR:</u>	後部サラウンドスピーカー用
<u>中央/サブウーハー:</u>	中央、サブウーハースピーカー用
<u>スピーカー出力:</u>	外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
<u>側面SUR:</u>	側面サラウンドスピーカー用
<u>MIC入力:</u>	マイク用
<u>VGAコネクタ:</u>	PCモニターに接続
<u>DVIコネクタ:</u>	DVI入力サポートのモニターに接続
<u>YPbPrコネクタ:</u>	YPbPr入力サポートのTVに接続
<u>標準ビデオ:</u>	SVideo入力サポートのTVに接続
<u>Dコネクタ:</u>	D入力サポートのTVに接続
<u>RJ-45 LANポート:</u>	家庭用、事務所用Ethernetと接続
<u>USBポート:</u>	USBデバイスとの接続用

LED表示

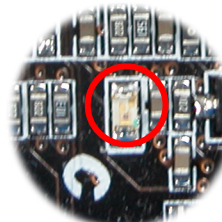
LED表示にはスタンバイLEDとブートLEDが含まれており、AOpenはフレンドリーなシステム情報を提供することを目標に設計しました。

STBY LED (スタンバイLED) は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

BOOT LED (ブートLED) はシステムがオンの時と、システムがPOST (パワーオン・セルフテスト) の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。



BOOT LED



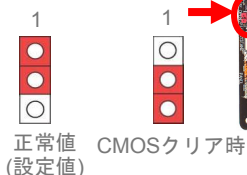
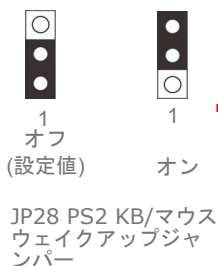
STBY LED



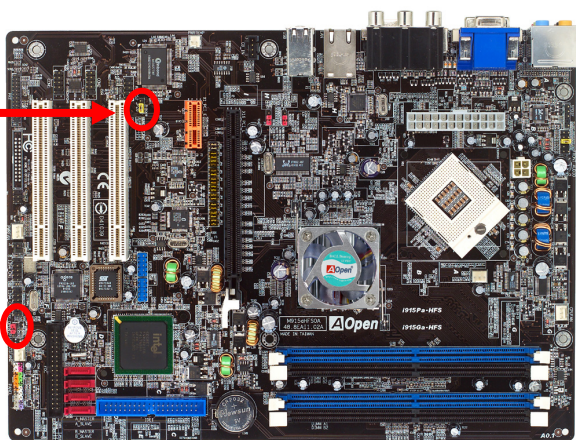
3.4 ジャンパー設定

JP28 キーボード/ マウス
ウェイクアップジャンパ

当マザーボードはPS2キーボード / マウス・ウェイクアップ・ジャンパー機能を提供しています。



JP14 データクリアジャンパ



CMOSをクリアすると、システムを設定値に戻せます。以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR2からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX電源ケーブルをコネクタPWR2に挿します。

JP14 データクリア
ジャンパー

第4章 特別な機能とユーティリティー

4.1 他の便利な機能

研究開発チームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ぶため、私達のテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



第5章 BIOSを設定する


5.1 紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのために重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenの研究開発エンジニアリングチームは当マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSの設定値のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。

 **メモ：** BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

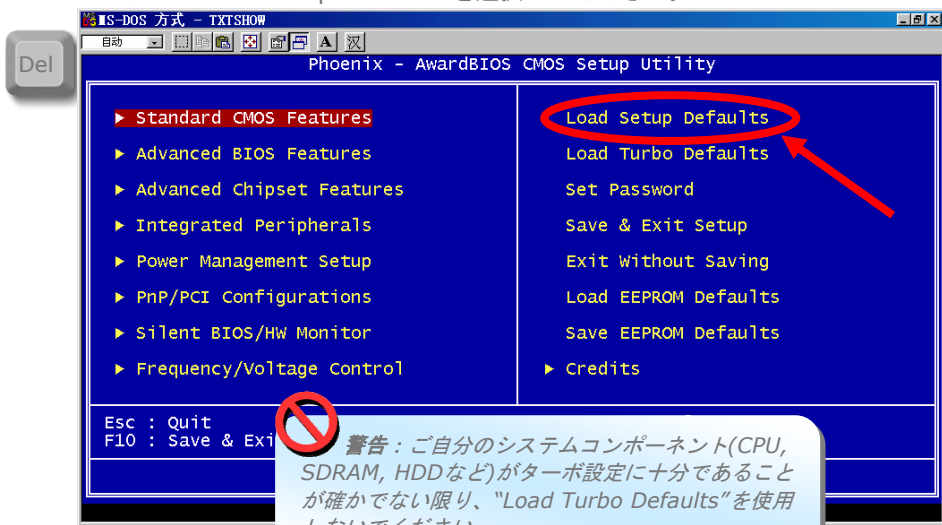
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー： 変更を保存せずに終了。 サブメニュー： 現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップ設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

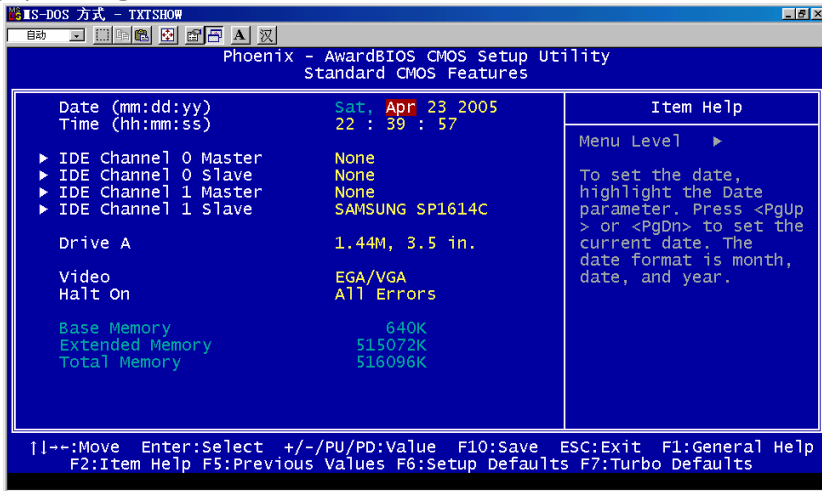
5.3 BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



標準的なCMOS機能

"Standard CMOS Setup"は日付、時刻、ハードディスクタイプなどの基本的なシステムパラメーターを設定します。矢印キーを使い項目をハイライトし、各項目の値の選択は<PgUp>や<PgDn>を使ってください。



Standard CMOS Features > Date

日付を設定するには、日付のパラメーターをハイライトして下さい。現在の日付を設定するには<PgUp>や<PgDn>を押して下さい。日付のフォーマットは月、日、都市の順です。

Standard CMOS features > Time

時刻を設定するには、時刻のパラメーターをハイライトして下さい。<PgUp>や<PgDn>を押して、現在の時刻を時間、分、秒の順に設定して下さい。時刻は24時間のmilitary clockに基付いています。

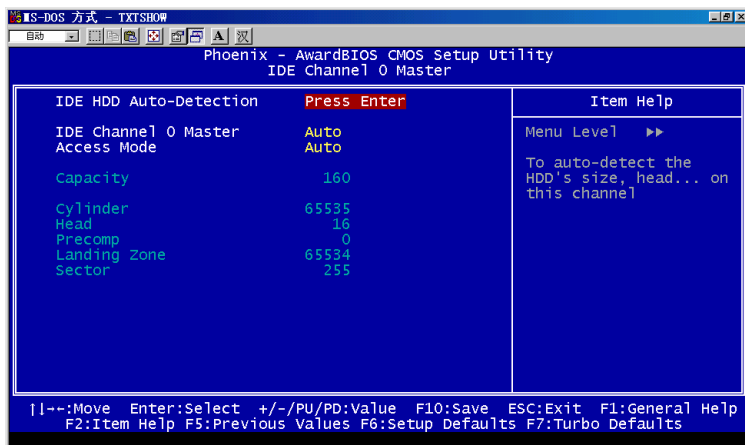
Standard CMOS features > Primary Master

Standard CMOS features > Primary Slave

Standard CMOS features > Secondary Master

Standard CMOS features > Secondary Slave

この項目ではシステムをサポートするIDEハードディスクの選択ができます。これらのパラメーターはSize, Number of Cylinder, Number of Head, Start Cylinder for Pre-compensation, Cylinder number of Head Landing ZoneそしてNumber of Sector per Trackです。デフォルト設定は**Auto**で、POST (パワーオン・セルフテスト)の時に、BIOSが自動的にインストールされているHDD (ハードディスクドライブ)を検出できるようにします。手動でHDDパラメーターに入ることを望まれる場合は、Manualを選択して下さい。



IDE HDD Auto-Detection: HDDパラメーターを自動検出できるように“Enter”を押して下さい。

IDE Channel 0 Master (Slave): Channel 0 (マスターあるいはスレーブ)で、IDEデバイスのパラメーターを定義します。利用可能なオプション：

- **None:** デバイスがなければ、ブートを早くするために“None”を選択する。
- **Auto:** IDEデバイスのパラメーターを自動検出するためにBIOSをオンにする。(設定値)
- **Manual:** IDEデバイスのパラメーターをユーザーが定義できるようにする。

Access Mode: HDD. 使用するHDDモードを設定する。利用可能なオプション：

CHS / LBA / Large / Auto (デフォルト)。ユーザーはHDDのラベルに従ってモードの選択ができます。

Cylinder: シリンダー数を入力する

Head: ヘッド数を入力する

Precomp: 事前補正を書き込む

Landing Zone: ヘッドの位置

Sector: セクター数

Standard CMOS features > Drive A

この項目ではユーザーがフロッピードライブ形式を選択できます。利用可能なオプション：**None / 360KB 5.25" / 1.2MB 5.25" / 720KB 3.5" / 1.44MB 3.5" / 2.88MB 3.5"**

Standard CMOS features > Vedio

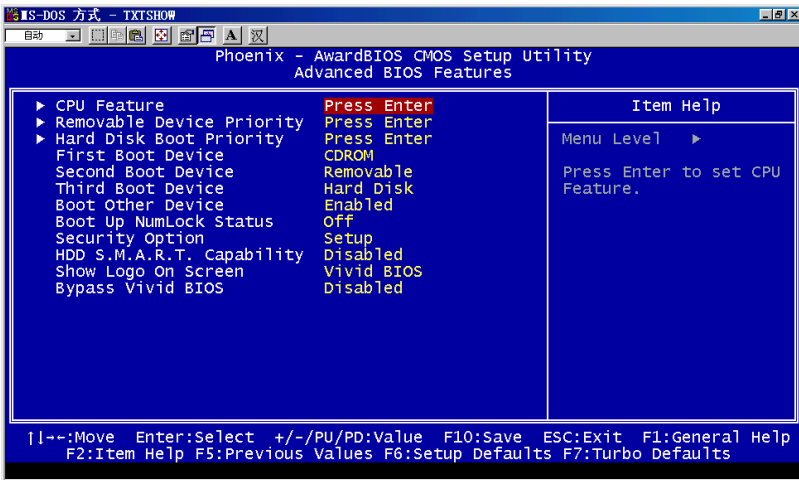
この項目では使用中のビデオ形式を特定します。デフォルトは**VGA/EGA**です。現在のPCがVGAのみを使用しているため、この機能はそれほど役に立たず将来的には廃止されます。

Standard CMOS features > HaltOn

このパラメーターは、パワーオン・セルフテスト(POST)エラーの場合のシステム停止を制御できるようにします。利用可能なオプション：**No errors / All errors / All, But Keyboard / All, But Diskette / All, But Disk/Key**

高度なBIOS機能

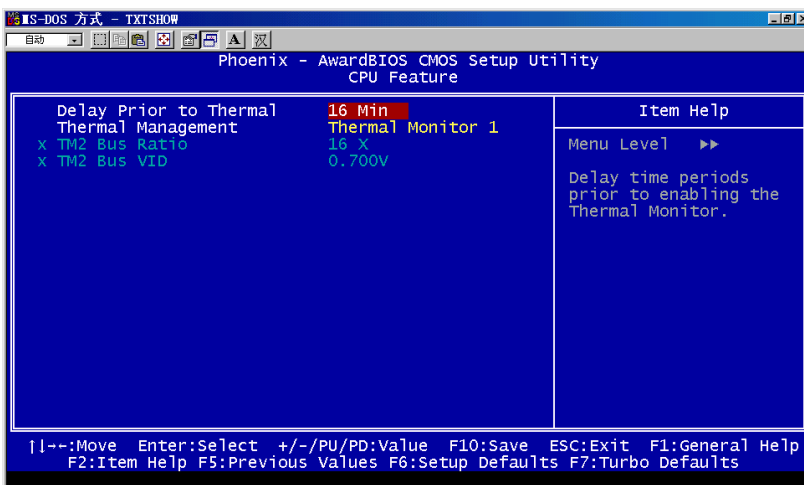
この画面はメインメニューから"Advanced BIOS Features"を選択した時に現れます。



Advanced BIOS Features > CPU feature

Delay Prior to Thermal: サーマルモニターをオンにする前にディレイ時間を選択してください。利用可能なオプション： **4 Min / 8 Min / 16 Min / 32 Min**

Thermal Management: CPU内部のサーマル管理機能を設定してください。CPUがThermal Monitor 1 (TM1)とThermal Monitor 2 (TM2)をサポートしている時は、ユーザーはTM1かTM2を選択できます。しかしCPUがTM2をサポートしていない場合は、TM1に固定されます。TM2がオンであり、高温度状況が検知されると、バスレシオのコア経由でCPUに動作クロックを調整させたり、VIDシグナル経由で電圧を入力させます。**TM2 Bus Ratio**と**TM2 Bus VID**はTM2用のCPUデフォルトを示します。



Advanced BIOS Features > Removable Device Priority

Advanced BIOS Features > Hard Disk Boot Priority

Advanced BIOS Features > CD-ROM Boot Priority

このパラメーターはシステムの起動検索順を特定できるようにしてくれます。

Advanced BIOS Features > First Boot Device

Advanced BIOS Features > Second Boot Device

Advanced BIOS Features > Third Boot Device

このパラメーターはシステムの起動検索順を特定できるようにしてくれます。利用可能なオプション：

- **Removable:** フロッピー, USB, ZIPなど
- **Hard Disk:** ハードディスクドライブ
- **CD-ROM:** CD-ROM, DVD-ROMなど
- **LAN:** ブートROM付属のLANカード
- **Disabled:**

Advanced BIOS Features > Boot Other Device

このパラメーターは上述されていない他のシステムの起動デバイスをオンにできるようにしてくれます。

Advanced BIOS Features > Boot Up NumLock Status

数式キーパッドの機能を有効にするために、このパラメーターを“On”に設定して下さい。数式機能をオフにするために、このパラメーターを“Off”に設定すると数式キーをカーソルコントロールとして使用できます。

Advanced BIOS Features > Security Option

“System”オプションはシステムブートとBIOS設定へのアクセスを制限します。パスワードを入力するようになるとのプロンプトがシステムを起動するたびに画面に表示されます。

“Setup”オプションはBIOS設定へのアクセスのみを制限します。

セキュリティーオプションをオフにするためには、メインメニューからPassword Settingを選択します。何も入力せずに、<Enter>を押して下さい。

Advanced BIOS Features > HDD S.M.A.R.T Capability

この項目はユーザーがHDD用のS.M.A.R.T. (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology : 障害事前検知機能)をオンにできるようにしてくれます。この機能はHDD障害の可能性を予知できます。デフォルトは“Disabled”です。

Advanced BIOS Features > Show Logo On Screen


この項目では“Full Screen logos”や“Vivid BIOS logos”を表示したり隠したりという選択ができるようになります。

Advanced BIOS Features > Bypass Vivid BIOS

この項目では起動時にVivid BIOSをバイパスしたりしなかったりできるようになります。

高度なチップセット機能

"Advanced Chipset Features"はチップセット依存機能のための設定を含みます。これらの機能はシステムパフォーマンスに関係します。



Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Advanced Chipset Features

Item	Value	Item Help
DRAM Timing Selectable	By SPD	Menu Level ▶ This item is used to set DRAM timing.
X CAS Latency Time	4	
X DRAM RAS# to CAS# Delay	4	
X DRAM RAS# Precharge	4	
X Active to Precharge Delay	12	
X System Memory Frequency	533MHz	
System BIOS Cacheable	Disabled	
Video BIOS Cacheable	Disabled	
Intruder Detection	Disabled	
** VGA Setting **		
PEG/Onchip VGA Control	PCIExpress Port	
Init Display First	PCI Slot	
On-Chip Frame Buffer Size	8MB	
DVMT Mode	DVMT	
DVMT/FIXED Memory Size	128MB	
Delayed PWROK Signal	400ms	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:
F2:Item Help F5:Previous Values

警告: 変更する前にはこのメニューに含まれている項目を十分に理解していることを確認して下さい。システムパフォーマンスを改善するためにパラメーター設定を変更できます。しかし、設定がお手元のシステム構成に対して正しくなければシステムが不安定なるかもしれません。

Advanced Chipset features > DRAM Timing Selectable

利用可能なオプション:

- **By SPD:** システムがDRAMの初期値に従ってタイミングを定義します。(初期値)
- **Manual:** ユーザーが自分でタイミングの定義をします。

Advanced Chipset features > CAS Latency Time

Synchronous DRAMがインストールされているとき、CAS待ち時間のクロックサイクル数はDRAMのタイミングに依存しています。利用可能オプション: **2, 2.5, 3**

Advanced Chipset features > DRAM RAS# to CAS# Delay

このフィールドは、RAMが書き込まれたり、読まれたり、リフレッシュされるときにユーザーがCASとRASストロブ信号の間でTiming Delayを挿入できます。Fastはパフォーマンスを早くし、Slowはより安定したパフォーマンスを提供します。このフィールドはSynchronous DRAMがシステムにインストールされている時だけ適用されます。利用可能オプション: **2, 3, 4, 5**

Advanced Chipset features > DRAM RAS# Precharge

DRAMがリフレッシュする前に不十分なサイクル数がRAS用に変更を累積する場合は、リフレッシュは不完全になり、DRAMがデータ保持に失敗する可能性があります。Fastはパフォーマンスを早くし、Slowはより安定したパフォーマンスを提供します。このフィールドはSynchronous DRAMがシステムにインストールされている時だけ適用されます。利用可能なオプション：**2, 3, 4, 5**

Advanced Chipset features > Active to Precharge Delay

Precharge DelayにアクティブなOSを選択して下さい。利用可能なオプション：**4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15**

Advanced Chipset features > System Memory Frequency

この項目はDRAMのタイミングを設定するために使用されます。

利用可能なオプション：**DDR: 333 MHz, 400 MHz, DDR2: 400 MHz, 533 MHz**

Advanced Chipset features > System BIOS cacheable

システムBIOSが高速なシステムパフォーマンスをできるようにキャッシュされます。

利用可能なオプション：**Disabled, Enabled**

Advanced Chipset features > Video BIOS cacheable

ビデオBIOSが高速なビデオパフォーマンスをできるようにキャッシュされます。

利用可能なオプション：**Disabled, Enabled**

Advanced Chipset features > Intruder Detection

この項目はユーザーがケースの開閉を検知できるようにします。ケースにCASE OPENケーブルが設計されていて、マザーボードに接続されている時にだけ機能します。

利用可能なオプション：**Disabled, Enabled**

Advanced Chipset features > PEG/On Chip VGA Control

この項目はオンボードのVGAやPCI Express Graphicカードからの最初のディスプレイを選択するために使用されます。

Advanced Chipset features > Boot Display

この項目は起動ディスプレイを設定するために使用されます。利用可能なオプション：

Auto, CRT, TV, EFP

Advanced Chipset features > Init Display First

PCI VGAカードをインストールした場合、この項目はどちらが最初のディスプレイカードかを決めさせてくれます。

Advanced Chipset features > On-Chip Video Memory Size

この項目ではユーザーが、チップ上のフレームバッファサイズ、固定メモリーサイズ、DVMTを制御できます。

Advanced Chipset features > On-Chip Frame Buffer Size

Advanced Chipset features > FIXED Memory Size

Advanced Chipset features > DVMT Memory Size

Advanced Chipset features > TV Format

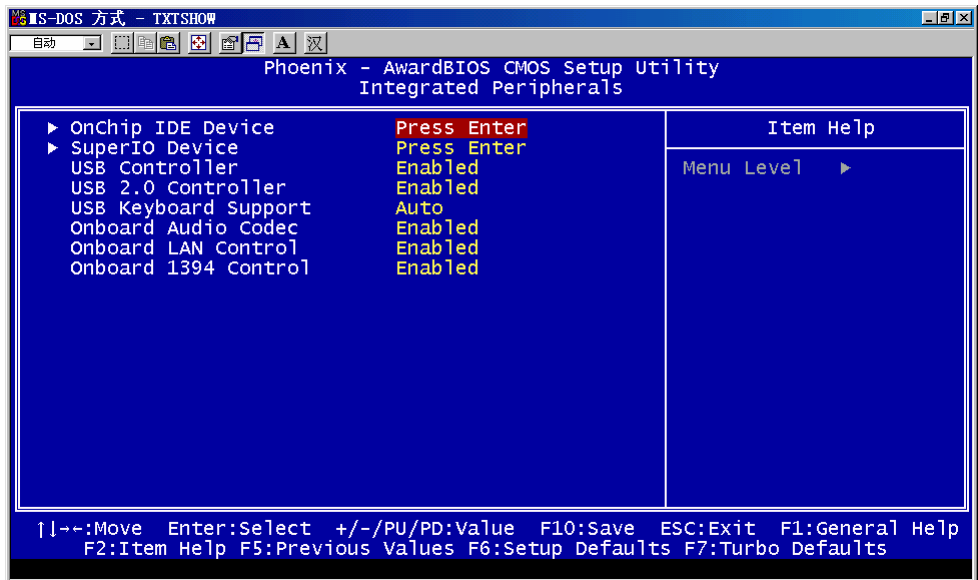
利用可能なオプション : Auto, NTSC_M, NTSC_M_J, NTSC_433, NTSC_N, PAL_B, PAL_G, PAL_D, PAL_H, PAL_I, PAL_M, PAL_N, PAL_60, SECAM_L, SECAM_L1, SECAM_B, SECAM_D, SECAM_G, SECAM_H, SECAM_K, SECAM_K1.

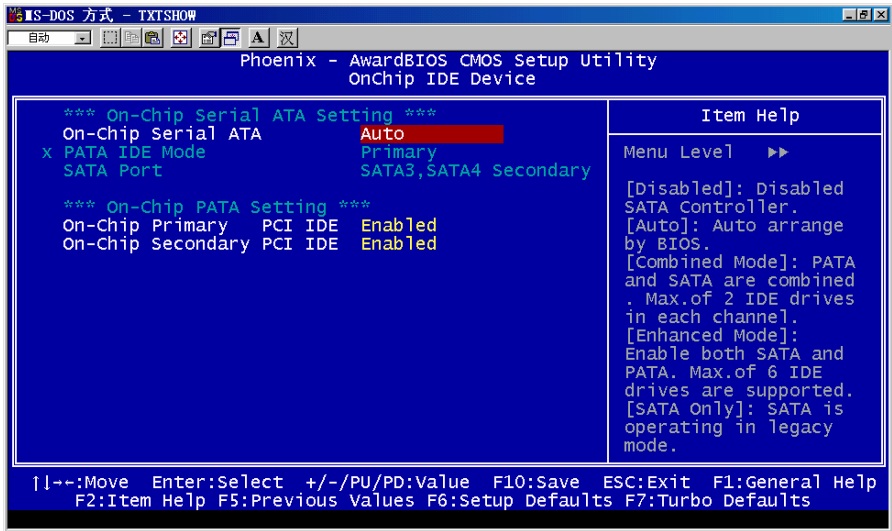
Advanced Chipset features > Delayed PWROK Signal

この項目では起動時の失敗を防ぐため、マザーボードと電源機構の互換性を追加するために使用されます。利用可能なオプション : 400ms (設定値) / 300ms / 200ms / 100ms / Disabled

統合された周辺機器

メインメニューから "Integrated Peripherals" のオプションを選択する場合、このサブメニューが表示されます。このオプションではユーザーが I/O 機能を構成できます。





Integrated peripherals > OnChip IDE Device

Integrated peripherals > OnChip IDE Device > On-Chip Serial ATA

この項目ではSATAとPATAの間でワークモードを選択できます。

利用可能なオプション： **Disabled:** SATAコントローラーをオフにする

Auto: BIOSで自動アレンジする

Combined Mode: PATAとSATAは互換性があります。各チャネル2つのIDEドライブが最大です。

Enhanced Mode: SATAとPATAの両方をオンにする。最大6つまでのIDEドライブをサポートしています。

SATA only: SATAは従来のモードで動作します。

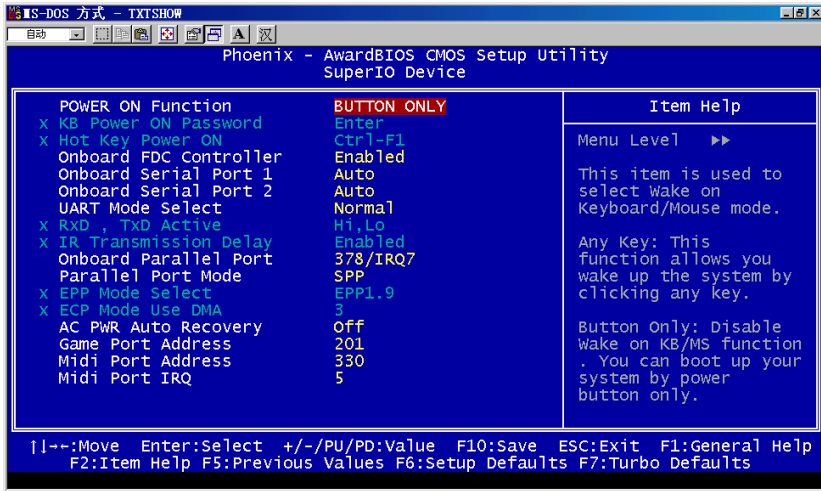
Integrated peripherals > OnChip IDE Device > PATA IDE Mode

On-chip SATAが“**Combined Mode**”として選択されると、この項目はPATAをプライマリ、あるいはセカンダリとして設定します。

Integrated peripherals > OnChip IDE Device > SATA Port

Integrated peripherals > OnChip IDE Device > On-Chip PATA Setting

このパラメーターはプライマリやセカンダリIDEコネクタに接続されたIDEデバイスを“**Enable**”あるいは“**Disable**”にします。



Integrated peripherals > SuperIO Device

この項目はSuperIOデバイスの設定を可能にします。

Power ON Function: この項目はキーボード/マウスモードのWakeを選択するために使用されます。

- **Any Key:** この機能はキーをクリックしてシステムをウェイクアップさせます。
- **Button Only:** KB/MS機能のWakeをオフにします。電源ボタンだけでシステムのブートができます。
- **Keyboard 98:** このオプションを選択する場合は、電源ボタンとKeyboard 98の“Wake”キーでシステムをブートできます。
- **Password:** 電源ボタンの機能をオフにし、システムが、あらかじめ設定されたキー（パスワードのようなもの）を通してのみ電源を投入できるようにします。
- **Hot Key:** このオプションを選択する場合は、“Hot Key Power On”項目からホットキーを特定する必要もあります。
- **Mouse Left:** このオプションでは左マウスボタンを2度続けてクリックすることでシステムをウェイクアップさせられます。
- **Mouse Right:** この機能では右マウスボタンを2度続けてクリックすることでシステムをウェイクアップさせられます。



メモ:

- ◆ この項目を変更するときは常に、システム再起動し、Windows や DOS が正しく起動した後でのみ有効になります。
- ◆ マウス機能の Wake はPS/2 マウスにのみ適用されます。
- ◆ 設定したパスワードを忘れた場合は、CMOS をクリアして下さい。
DOSでマウス機能のWakeを使用したい場合は、マウスのDOSドライバーをインストールする必要があります。

KB Power ON Password: パスワードとして1-5キーを指定できます。

Hot Key Power On: "Power On Function" 項目の"Hot Key"オプションを選択する場合、このホットキーを指定する必要があります。

Onboard FDC Controller: このパラメーターを"Enabled"に設定すると、個々のコントローラーカードの代わりに、フロッピーディスクドライブをオンボードのフロッピーディスクコントローラーに接続できるようになります。個々のコントローラーカードを使用したい場合は、設定をDisabledに変更して下さい。

Onboard Serial Port 1: この項目はアドレスとボードのシリアルポートの割り込みを割り当てます。デフォルトは"Auto"です。

Onboard Serial Port 2: この項目はアドレスとボードのシリアルポートの割り込みを割り当てます。デフォルトは"Auto"です。

UART Mode Select: この項目は"Onboard Serial Port 2"が有効な場合にのみ設定可能です。Serial Port 2モードの指定ができます。利用可能なオプション:

- **Normal:** Serial Port 2を通常モードで動作するように設定して下さい。これがデフォルト設定です。
- **IrDA (SIR):** この設定は赤外線シリアル通信を最大115.2K baudレートにします。
- **ASKIR:** この設定は赤外線シリアル通信を最大57.6K baudレートにします。

RXD, TXD Active: この項目はUARTでIR機器やモデム等を使用する際のRxD (データ受信)およびTxD (データ送信)モードを選択する時に使用されます。通常は、デフォルト設定を維持されるようお勧めします。お手持ちの機器に付属の取り扱い説明書を参照して下さい。利用可能なオプション: **Hi, Hi / Hi, Lo**

IR Transmission Delay: "Enabled"が選択されている場合は、SIRがTXモードからRXモードへ移行する際に4文字分のディレイがあります。

Onboard Parallel Port: この項目はオンボードの平行ポートアドレスおよび割り込みを制御します。利用可能なオプション: **3BC/IRQ7, 3BC/IRQ7, 3BC/IRQ7, Disabled**

Parallel Port Mode: この項目は平行ポートのモードの設定を可能にします。モードのオプションはSPP (標準双方向平行ポート), EPP (エンハンスド平行ポート)とECP (エクステンデッド平行ポート)。利用可能なオプション:

- **SPP (標準双方向平行ポート):** SPPはIBM ATやPS/2との互換モードです。
- **EPP (エンハンスド平行ポート):** EPPはラッチなしで双方向に直接読み書きを可能にしてスループットを上げた平行ポートです。
- **ECP (エクステンデッド平行ポート):** ECPはDMAと、さらにRLE (ランレングスエンコード)方式による圧縮と伸張をサポートした平行ポートです。
- **ECP + EPP**

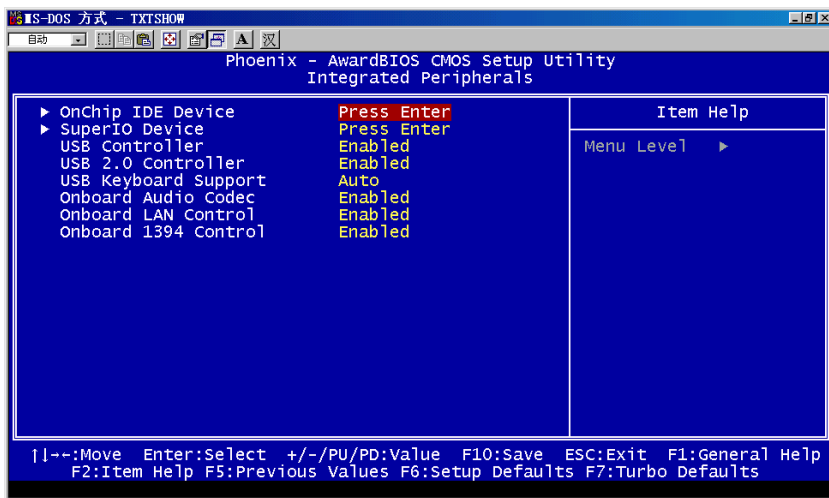
EPP Mode Select: この項目でEPPモードプロトコルを選択します。

利用可能なオプション: **EPP 1.7, EPP 1.9**

ECP Mode Use DMA: この項目でECPモードでのDMAチャンネルを設定します。利用可能なオプション: **3, 1**

AC Power Auto Recovery: 従来のATXシステムは停電でAC電源が切断された場合、電源オフの状態のままです。この設計は、常時電源の入ったUPSなしでは、ネッ

トワークサーバーやワークステーションにとっては不便です。この項目はこの問題を解決するために使用します。Onを選択すると、AC電源が復旧した時点で自動的にシステムを起動させられます。Offを選択する場合、システムはオフのままです。Former-Sts (former status) オプションを選択すると、システムのオン・オフは直前の状態によって制御されます。利用可能なオプション： **Former-Sts, On, Off**



Integrated peripherals > USB Controller: この項目でUSBコントローラーのオン・オフができます。

Integrated peripherals > USB 2.0 Controller: この項目でUSB 2.0コントローラーのオン・オフができます。

Integrated peripherals > USB Keyboard Support: この項目で、オンボードBIOS内でUSBキーボードドライバーのオン・オフができます。キーボードドライバーは従来のキーボードコマンドをシュミレートし、OSにUSBドライバーがない場合には、POSTの間またはブートの後でUSBキーボードが使用できます。

Integrated peripherals > On Board Audio Codec: この項目はオンボードオーディオをオン・オフにするために使用されます。

Integrated peripherals > Onboard 1394 Control: この項目はオンボード1394をオン・オフにするために使用されます。

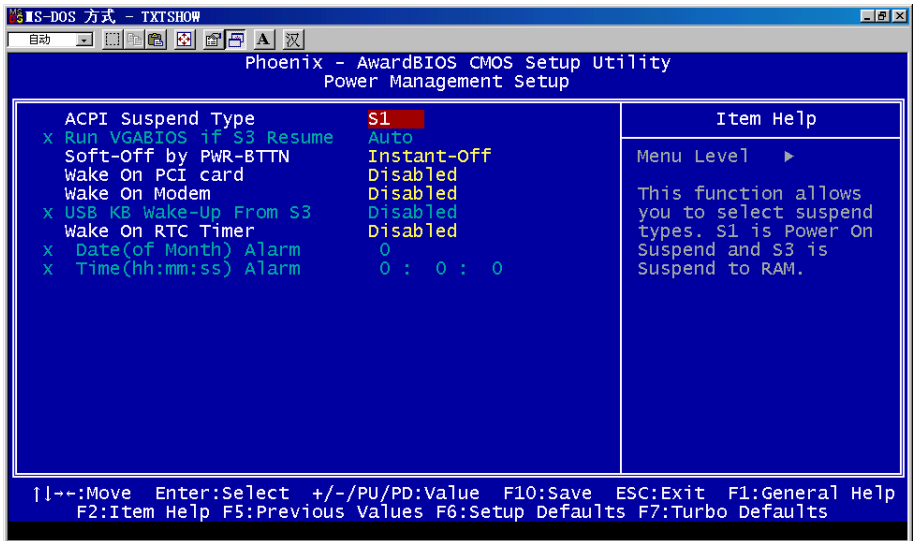
Integrated peripherals > Onboard LAN1 Control: この項目はオンボードLANをオン・オフにするために使用されます。

Integrated peripherals > Onboard LAN2 Control: この項目はオンボードLANをオン・オフにするために使用されます。

Integrated peripherals > Onboard SATA Control: この項目はオンボードSATAをオン・オフにするために使用されます。

パワーマネジメント設定

パワーマネジメント設定画面でマザーボードの環境機能を制御できます。以下の画面を参照して下さい。



Power Management > ACPI Suspend Type

この項目でサスペンドのタイプを設定します。S1はPower On Suspendで、S3はSuspend to RAMです。利用可能なオプション : **S1, S3, S1 & S3**

Power Management > Soft-off by PWR-BTTN

これはACPI規格で、ハードウェアでサポートされています。ディレイ4秒を選択したとき、前面パネルのソフトパワースイッチは電源をオン、サスペンド、そしてオフするために使用されます。スイッチを電源オンの間に4秒弱押ししていると、システムはサスペンドモードになります。スイッチを電源オンの間に4秒以上押ししていると、システムの電源はオフになります。デフォルト設定はInstant-Offです。Instant-Offが選択されている場合は、ソフトパワースイッチはオン・オフを制御するためにのみ使用されます。そのため4秒以上押し続ける必要はありません。サスペンドはありません。

利用可能なオプション : **Delay 4 sec., Instant-Off**

Power Management > Wake On PCI card

これはPCI規格2.2の機能です。PCIバスはPCIカードへのスタンバイ電流を供給し、PCIカードで何らかの活動があるとシステムはウェイクアップします。

利用可能なオプション : **Disabled, Enabled**

Power Management > Wake On Modem

この項目ではモデムウェイクアップ機能をオン・オフします。

利用可能なオプション : **Disabled, Enabled**

Power Management > Wake On RTC Timer

ウェイクアップタイマーはアラームのようなもので、特定のアプリケーションを使用するためシステムを指定した時間にウェイクアップ・パワーオンさせるのに使用します。指定は、毎日または一ヶ月以内の特定の日が設定できます。日時は秒単位まで指定可能です。このオプションでRTCウェイクアップ機能をオン・オフします。利用可能なオプション：
By Date, By Week, Disabled

Power Management > Date (of Month) Alarm

この項目はウェイクオンRTCタイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する日付を指定します。例えば、15にセットするとシステムは毎月15日に起動します。



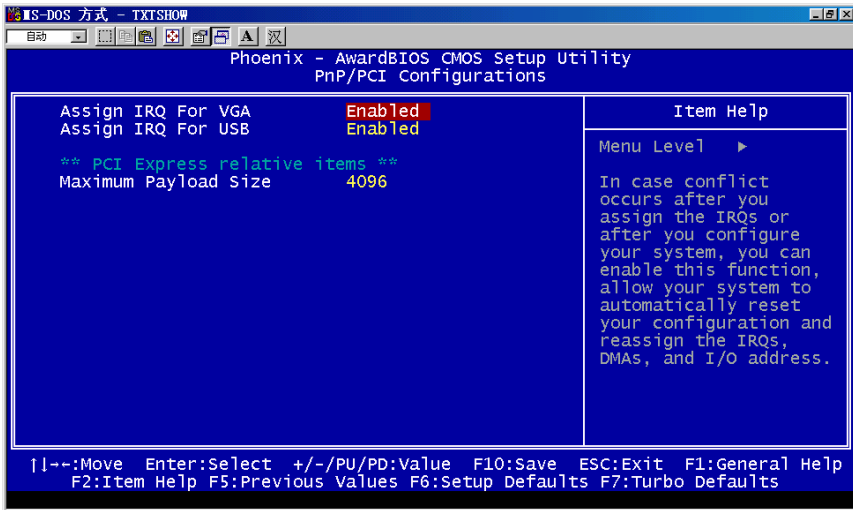
ヒント：この項目を 0 に設定すると毎日指定した時間（ウェイクオンRTCタイマーで設定した）にシステムがウェイクアップします。

Power Management > Time (hh:mm:ss) Alarm

この項目はウェイクオンRTCタイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する時刻を指定します。

PNP/PCI構成

PNP / PCI構成設定ではシステムにインストールされているISAおよびPCI機器の構成ができます。メインメニューから"PNP/PCI Configuration Setup"オプションを選択すると、以下の画面が表示されます。



PNP/PCI Configurations > Assign IRQ For VGA

IRQを割り当てたりシステムを構成した後でコンフリクトが起きる場合は、この機能をオンにすると、システムが自動的に構成をリセットし、IRQ、DMAそしてI/Oアドレスを再度割り当てられるようになります。

利用可能なオプション： **Disabled, Enabled**

PNP/PCI Configurations > Assign IRQ For USB

IRQを割り当てたりシステムを構成した後でコンフリクトが起きる場合は、この機能をオンにすると、システムが自動的に構成をリセットし、IRQ、DMAそしてI/Oアドレスを再度割り当てられるようになります。

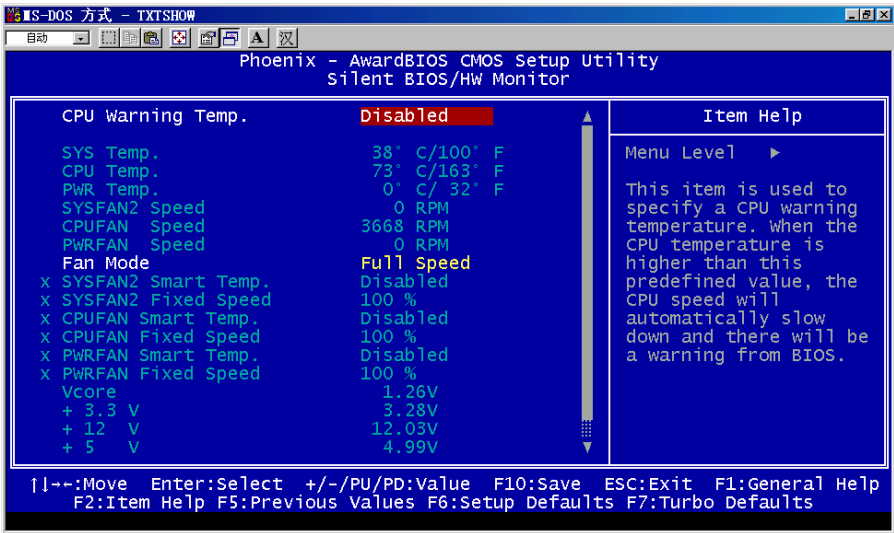
利用可能なオプション： **Disabled, Enabled**

PNP/PCI Configurations > Maximum Payload Size

この項目ではTLP (Transaction Layer Package) サイズの設定が出来ます。利用可能なオプション： **128, 256, 512, 1024, 2048, 4096**

Silent BIOS/HWモニター

このサブメニューはSilent BIOS / HWモニター状況を表示しています。幾つかの基本的な制御機能を提供しています。



Silent BIOS/HW Monitor > CPU Warning Temperature

この項目はCPUの警告温度を指定するために使用します。CPUの温度がこの事前に定義した値を上回ると、CPU速度が自動的に遅くなり、BIOSからの警告があります。

Silent BIOS/HW Monitor > Fan Mode

この項目はユーザーがファン速度のモードを選択できるようにしています。利用可能なオプション：

- **Full Speed:** 全てのファンが全速で回転します。
 1. CPUFANが接続されていないかたり動作していない場合、警告音があります。
 2. SystemFANあるいはPowerFANがマザーボードに接続されている場合、また SystemFANあるいはPowerFAN動作していない場合、警告音があります。
- **Smart Control:** ユーザーが個々のファンにとって重要な温度の設定が可能です。温度が危機的なレベル以下であればファンは動かず、逆の場合にファンが動きます。
 1. 電源温度コネクタが接続されていない場合は、電源ファンのSmart Control モードはオフになります。
- **Fixed Speed:** ユーザーが、一定の速度でファンが動作するように個々のファンの電圧を定義できます。
 1. CPUFANが接続されていないかたり動作していない場合、警告音があります。
 2. SystemFANあるいはPowerFANがマザーボードに接続されている場合、また SystemFANあるいはPowerFAN動作していない場合、警告音があります。

クロック/電圧コントロール

このサブメニューはCPUとメモリークロックを構成するのに使用します。



Frequency/Voltage Control > CPU Bus Frequency

この項目はユーザーがCPUバスクロックをオーバークロックできるようにしています。帯域は100から400です。



ヒント: オーバークロックに失敗したときは、デフォルト設定を戻すためにCMOS (JP14) をクリアできます。電源を投入してから、すぐに“Home”を押し、画面が現れるまでそうしてください。

Frequency/Voltage Control > Clock Spread Spectrum

この項目はクロックスプレッドスペクトル値を設定するために使用します。BIOSがインストールされているCPUに従って調整可能な値を決めますが、全ての項目が表示されるわけではありません。この機能はCPUバスクロックが100MHzのときだけ機能します。

利用可能なオプション：**0.70% Center / 1.00% Center / 1.20% Center / Spread Off**

Frequency/Voltage Control > CPU Voltage Default

この項目はインストールされているCPUのデフォルト電圧を表示します。

Frequency/Voltage Control > CPU Voltage Setting

この項目はCPU Vcore電圧を調整するために使用します。BIOSがインストールされているCPUに従って調整可能な値を決めます。

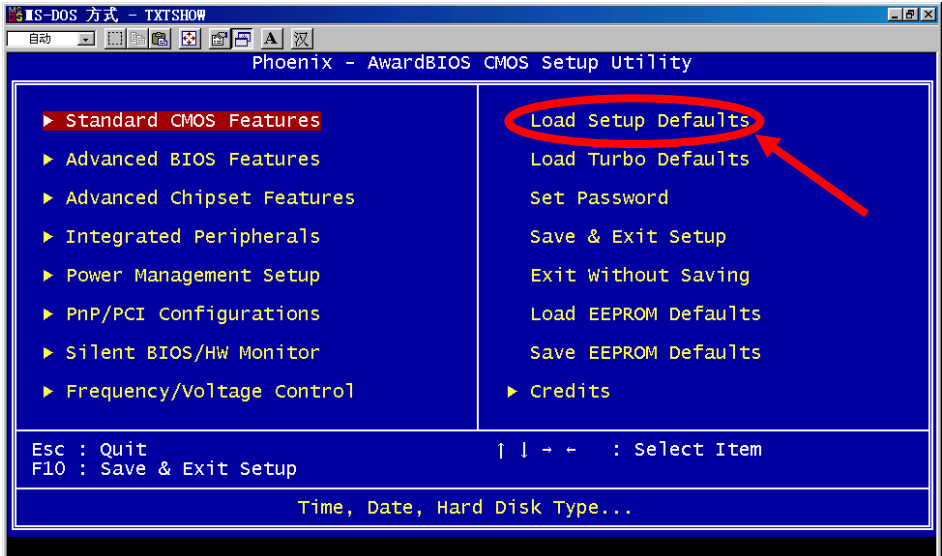
Frequency/Voltage Control > N/B Voltage Setting

この項目はNorth Bridge電圧を調整するために使用します。BIOSがインストールされているNorth Bridgeデフォルトに従って、調整可能な値を決めます。



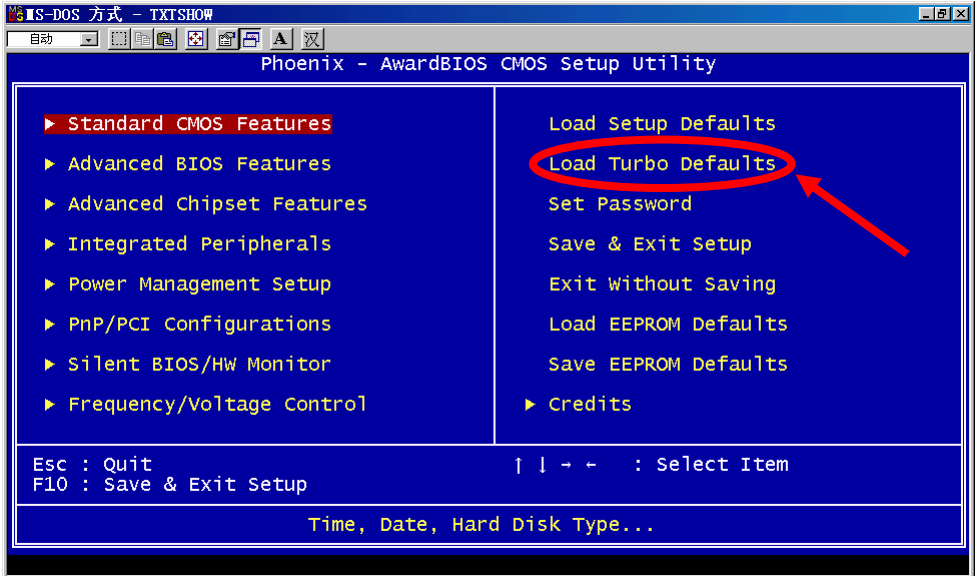
設定値をロードする

"Load Setup Defaults"オプションは最適なシステムパフォーマンスのための最適化された設定をロードします。最適設定はターボ設定より比較的安全です。全ての製品検証、互換・信頼性試験報告と製品品質は"Load Setup Defaults"に基付いています。通常使用でこの設定をお使いになるようお勧めします。"Load Setup Defaults"はマザーボード用で最も遅い設定ではありません。不安定な問題を検証する必要がある場合は、最も遅くて、より安全な設定をするために、手動で"Advanced BIOS Features"および"Advanced Chipset Features"のパラメーターを設定できます。



ターボ設定値をロードする

"Load Turbo Defaults"オプションは"Load Setup Defaults"よりも優れたパフォーマンスを提供します。パフォーマンスのためにマザーボードを酷使うことを望むパワーユーザーの便宜のために提供されています。ターボ設定は詳細な信頼性および互換試験を全て実施していません。ある程度の構成とロードのみ試験しています。(例えば、VGAカードおよび一つDIMM/RIMMだけを持つシステム)。チップセットメニューの項目を十分に理解してから、ターボ設定を使用して下さい。



パスワードを設定する

パスワードはコンピューターの不正使用から守ります。パスワードを設定した場合、システムがブートやSetupにアクセスの前に現在のパスワードを尋ねてきます。

パスワードを設定するには：

1. プロンプトでパスワードを入力して下さい。パスワードは英数字 8 文字までです。文字を入力するときは、パスワードのボックスにアスタリスクが表示されます。
2. パスワードを入力してから、押して下さい。
3. 次のプロンプトで、パスワードを新しいパスワードを確認するために再度入力し、押します。パスワードの入力の後で、画面が自動的にメイン画面に変わります。

パスワードをオフにするには、パスワードを入力するよう求められるときに“Enter”を押して下さい。画面にパスワードがオフになったことを確かめるメッセージが現れます。

設定を保存して終了する

この機能はSetupを終える前に、自動的に全てのCMOS値を保存します。

設定を保存せずに終了する

CMOS値の変更を保存せずにSetupを終了するときこの機能を使って下さい。新しい構成を保存したい場合はこのオプションを使用しないで下さい。

EEPROM設定値をロードする

"Load Setup Default"および"Load Turbo Default"以外でEEPROMのご自分の設定を保存するために"Save EEPROM Default"を使用できます。この項目を使って再度ロードできます。

EEPROM設定値を保存する

EEPROMのご自分の設定を保存するためにこの項目を使用できます。次に、CMOSのデータが失われてた場合や、以前の設定を忘れた場合に、再度ロードするために"Load EEPROM Default"を使用できます。

著作権

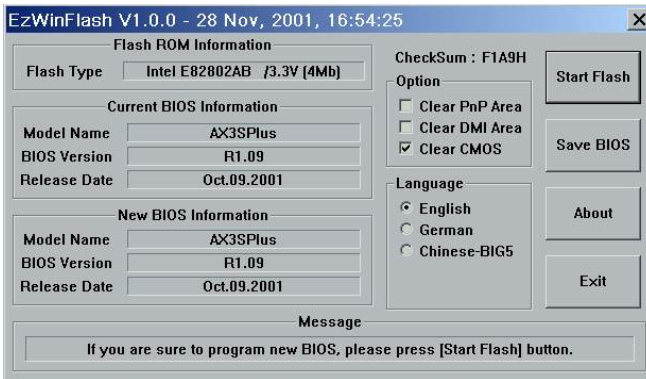
AOpen's R&Dが参画した当マザーボードの研究開発の全てのリスト。

5.4 Windows環境下でのBIOSアップグレード



AOpenの優れた研究開発能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード-EzWinFlash-をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるよう考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーフレンドリーな動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意：システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

メモ：このBIOSの写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip (<http://www.winzip.com>) を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE, WSGMAXII102.BIN。

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。

5.5 Vivid BIOSテクノロジー



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしまいましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーティリティを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ <http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm> のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！



第6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがいつも“簡単に”やってくれるので驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールーションを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウザしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールーションを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen i915Ga-HF8 Welcome screen. On the left, there is a vertical navigation menu with icons and callouts: 'ドライバー' (Drivers), 'ユーティリティ' (Utilities), 'CDの内容をブラウザ' (Browse CD content), 'Readme', and 'Exit CD'. The main content area is titled 'Welcome' and 'Thank you for choosing AOpen i915Ga-HF8'. It includes contact information for AOpen Inc., AOpen America Inc., AOpen Computer B.V., AOpen Computer GmbH, AOpen Japan Inc., and AOpen International Co., Ltd. A callout on the right points to the 'AOpenの支社情報' (AOpen branch information) section. Another callout at the top right points to the 'Install User manual' icon.

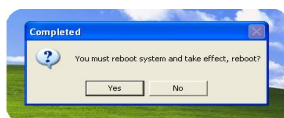
ドライバー	AOpen	Welcome	Install User manual
ユーティリティ		Thank you for choosing AOpen i915Ga-HF8	
CDの内容をブラウザ		Contact us	
Readme		AOpen Inc. http://www.aopen.com.tw TEL: +886-2-3789-5888 FAX: +886-2-3789-5899	
Exit CD		AOpen America Inc. http://english.aopen.com.tw TEL: +1-510-489-8928 FAX: +1-510-489-1998	
		AOpen Computer B.V. http://www.aopen.nl TEL: +31-73-645-9516 FAX: +31-73-645-9604	
		AOpen Computer GmbH. http://www.aopen.com.de TEL: +49-1805-559191 FAX: +49-2102-157799	
		AOpen Japan Inc. http://www.aopen.co.jp TEL: +81-048-290-1800 FAX: +81-048-290-1820	AOpenの支社情報
		AOpen International Co., Ltd. http://www.aopen.com.cn TEL: +86-21-6225-8622 FAX: +86-21-6225-7926	

6.1 ドライバーをインストールする

Installing driver (ドライバーをインストールする) というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstall は自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。(ドライバーやユーティリティーの中には再起動の部分をスキップするものもあります。)

6.2 ユーティリティーをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティーをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティーを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティーが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、その後は複雑なステップはなく、システムにユーティリティーがあつという間にインストールされます。

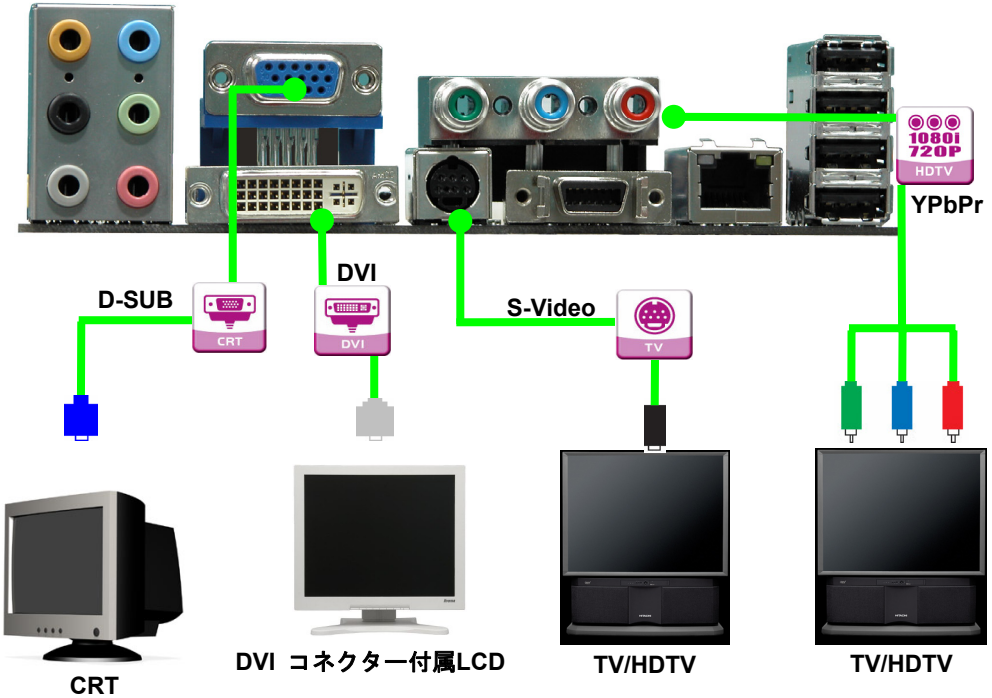


アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



6.3 ディスプレイ出力動作

AOpenは高解像度のディスプレイ出力を備えた最新の技術革新を提供致します。以下の構成図はディスプレイ出力の様式を示しています。



FAQ—よく尋ねられる質問

- (1) Intelのドライバは“Dual Monitor Mode” と“Single Monitor Mode” をサポートしています。
- (2) Dual Monitorモードを実行してMedia Playerをお使いの時は、出力装置だけが機能しています。両方の出力装置をサポートされたい場合は、“Dual Monitor Mode”から“Extended Mode”に切り替えて下さい
- (3) Dual Monitor Modeのプライマードライバを引き出して、再起動する場合は、セカンダリ装置の画面が暗くなります。プライマリー装置の設定のためにホットキーをお使い下さい。

Hot Keyリスト

Ctrl + Alt + F1
Ctrl + Alt + F2
Ctrl + Alt + F4

プライマリーとしての出力装置

D-SUB
TV (プライマリーとして設定)
DVI

- (5) Geforce FX5200 PCI VGAカードを挿入する時は、システムが停止します。Intelドラ



イバーがこのカードとコンフリクトするためです。

ディスプレイ出力動作

以下の表はディスプレイ出力の動作を示しています。Intel VGA Driver 14.11.00.4277以降のものをお使い下さい。

BIOS POSTの間



: ON



: OFF

出力
装置



CRT(D-SUB)



LCD(DVI)



TV1(YPbPr)



TV2(S-Video)

組み合わせ

D-SUB



DVI-I



YPbPr



S-Video



D-SUB +



DVI-I



D-SUB +



YPbPr



D-SUB +



S-Video



DVI-I +



YPbPr



DVI-I +



S-Video



YPbPr +



S-Video



D-SUB +



DVI-I +



YPbPr



D-SUB +



DVI-I +



S-Video



D-SUB +



YPbPr +



S-Video



DVI-I +



YPbPr +



S-Video



D-SUB +

DVI-I +


YPbPr +




S-Video



メモ :

- (1) ドライバーはデュアルモードの出力のために2つの装置だけをサポートしています。  は出力のために選択したものに、TVの両方と機能するという意味です。(メモ2を参照)
- (2) ドライバーはTV出力だけをサポートしています。デュアルモードでTVの両方を選択されると、プライマリーは動作可能ですが、セカンダリーは真っ暗になります。
- (3) YPbPrとS-Videoを接続するとドライバーはYPbPrをTV1としてS-VideoをTV2として設定します。

 : 動作可

 : OFF

組み合わせ

出力装置



D-SUB



-

-

-

DVI-I



-



-

-

YPbPr



-



-

S-Video



-

-



D-SUB



+ DVI-I



-

-

D-SUB



+ YPbPr



-



-

D-SUB



+ S-Video



-

-



DVI-I



+ YPbPr



-



-

DVI-I



+ S-Video



-



-



YPbPr



+ S-Video



-

-



D-SUB



+ DVI-I



+ YPbPr



-

D-SUB



+ DVI-I



+ S-Video



-



D-SUB



+ YPbPr



+ S-Video



-



DVI-I



+ YPbPr



+ S-Video



-



D-SUB



+ DVI-I



+ YPbPr



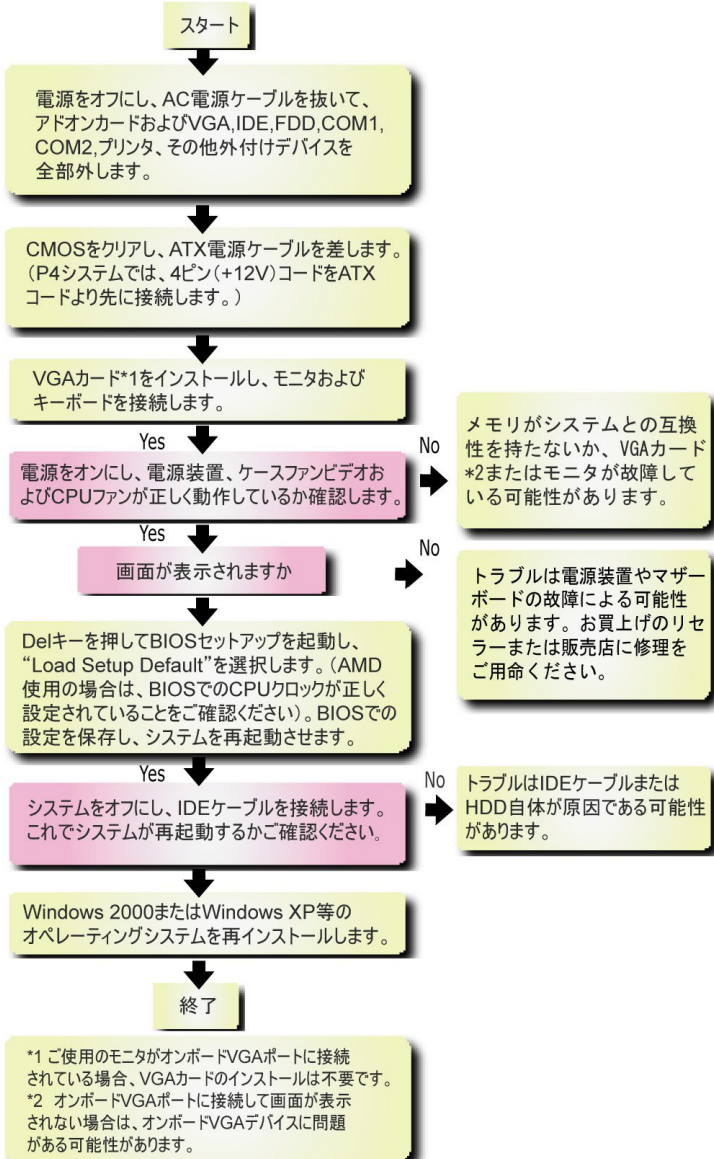
+ S-Video



第7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



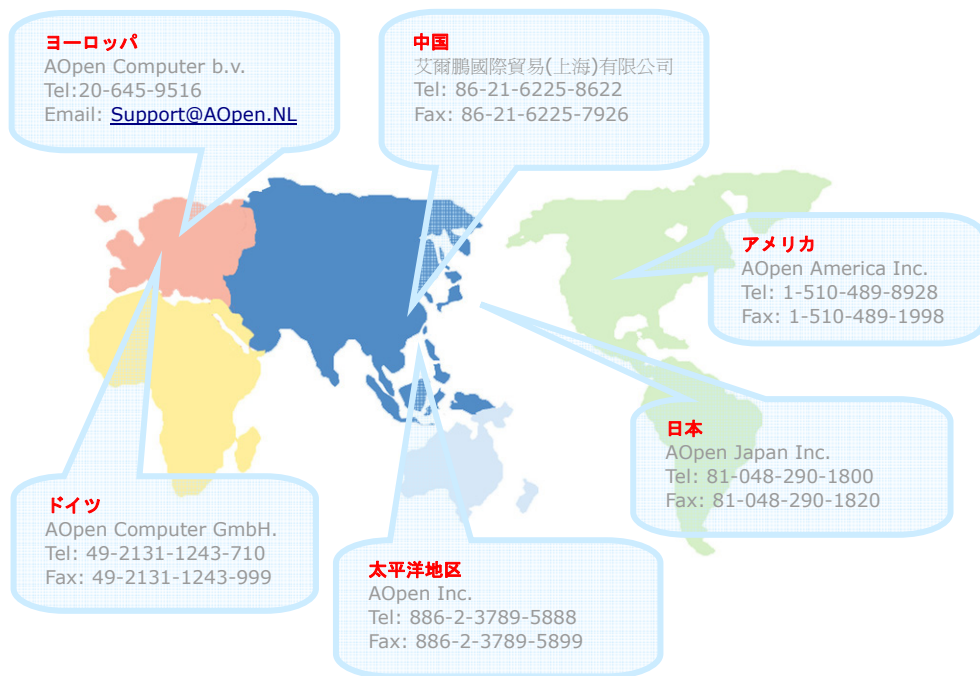
第8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ

AOpen 製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様には質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご理解に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパEmail: Support@AOpen.NL

太平洋地区: <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国: <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

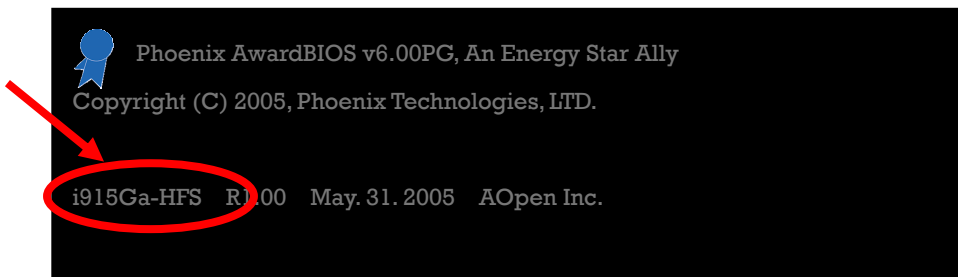
ドイツ: <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

アメリカ: <http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

日本: <http://aopen.jp/tech/index.html>

型式名とBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンは最初の起動画面(POST画面)の左上に表示されます。以下が一例です：



i915Ga-HFSはマザーボードの型式名で、R1.00はBIOSバージョンです。

お買い上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げのマザーボードは <http://club.aopen.com.tw/productreg/> からご登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシンゲームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。型式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N) およびお買い上げ日。パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



パーツNo.

シリアルNo.

P/N: 91.88110.201はパーツNo, S/N: 91949378KN73はシリアルNo.

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ	
エラー音	メッセージ
1 回短く(・)	システムのブートが正常
1 回長く - 1 回短く(-・)	DRAMエラー
1 回長く - 2 回短く(-・・)	ディスプレイカードかモニターの接続エラー
1 回長く - 3 回短く(-・・・)	キーボードエラー
長いエラーが継続 (- - - -)	DRAMが正しく装着されていない



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーゼーインストールガイドはAOpenボーナスバックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.html>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ(よく尋ねられる質問)が列挙されています。ログインに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てください。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.html>

ソフトウェアのダウンロード：ログインして必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。